

平成24年度 スクール・ミュージアムバス事業活動記録 (アートコース)



SCHOOL MUSEUM BUS PROGRAM REPORT

福岡県立美術館

目 次

I. はじめに	1
II. 事業実施要項	2
1. 趣旨 2. 事業内容 3. 主催 4. 実施期間 5. 対象校 6. 補助対象経費 7. 実施手続 8. 連絡先 9. 事業の流れ(参考)	
III. アートコース事業実施細目	4
1. アートコース(福岡県立美術館)における鑑賞活動メニュー 2. 留意事項 3. 鑑賞プログラム実施例 4. 鑑賞プログラム職員配分 5. 鑑賞プログラムの進め方例	
IV. 事業実施校一覧	7
V. 事業実施内容	8
1. 事前打合せ 2. 鑑賞マナー 3. 展覧会 「永田萌 ー夢みるチカラ展」 「コレクション展Ⅱ 夏休み特集:松本英一郎 風景は微細動する」 「第68回福岡県美術展覧会」 「郷土の美術をみる・しる・まなぶ vol 4 児島善三郎と中村研一」 「40周年記念ベルサイユのばら展」 「コレクション展Ⅲ 特集:光をさがして」 「福岡現代美術クロニクル1970ー2000」 アートカードを使った鑑賞「卒業をテーマに展覧会を企画しよう」	
VI. 事業アンケート結果 ～感想(抜粋)と集計及び考察～	28
1. 児童生徒の感想(抜粋) 2. アンケート集計結果(児童生徒)と考察 3. 教師の感想(抜粋) 4. アンケート集計結果(教師)と考察	
VII. 成果と課題	38
VIII. 平成24年度スクール・ミュージアムバス事業方針と実施案	36
1. 事業方針 2. 実施案	
IX. 美術館案内リーフレット「けんびいかん?」	38

I. はじめに

本資料は平成24年度の「スクール・ミュージアムバス事業（アートコース）」についての事業記録です。本事業は、本年度から福岡県立美術館、福岡県青少年科学館、財団法人福岡県教職員互助会の3者合同事業としてリニューアルスタートし、事業名も「スクール・アートバス事業」から「スクール・ミュージアムバス事業」と名称変更いたしました。

今年で4年目を迎える本事業（アートコース）は、県内の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校などに通う子どもたちを対象として、各学校と連携して子どもたちに合わせた鑑賞プログラムを実施し、子どもたちが本物の美術作品に触れる機会、学校では体験できない学びの場を提供しています。さらに、学校から美術館に来館するための往復の貸し切りバス費用等の経費を補助するものです。

「子どもたちに本物の美術作品を見せたい。」

それは、学校で図画工作や美術を教える教師の願いであり、私どもの願いでもあります。本物の美術作品に出合い本物の美術作品にふれた子どもの目は輝きにあふれています。そんな子どもたちの姿を私たちは目のあたりにしてきました。本年度福岡県立美術館で実施いたしましたアートコースには、32校を実施校として選考・決定し、合計1,726名の児童生徒・引率の先生方に美術館での多様な体験をしていただきました。

平成23年度から順次全面実施となっている学習指導要領では、鑑賞指導のさらなる充実が求められており、学校と美術館が連携することや、文化財を活用することが勧められています。しかし、単に美術館を施設として利用するのではなく、学校と美術館が協力して、子どもたちが能動的に鑑賞できるように、両者が考え、学び、連携の可能性を探ることは大変意義深いものです。そこで、福岡県立美術館では各学校の担当者と事前の打合せを綿密に行い、児童生徒の実態や発達段階、学習の目的などに応じた鑑賞学習の実施に努めています。

図画工作科・美術科における鑑賞学習とは、人が生み出す「美術作品」をなかだちとして自分を見つめる学習です。また、自分自身を含め、人が何を感じ、考え、生きているのかについて共感したり体感したりする学習でもあります。様々な価値や思い、あるいは表現などについて、人と人、人との、人と価値をつなぐものであり、子どもたちの成長にとって必要不可欠な学習です。子どもたちが、本物の美術作品と出合うことによって、沸き起こってくる感情や思考を大切にしたい鑑賞活動を行うためにも、昨年度からは特に言語活動を取り入れた小集団活動を多く行うとともに、子どもたちがコミュニケーション力を自然な形で発揮しながら楽しく学習できる鑑賞プログラムの実施に努めて参りました。

事業の開催と本資料の作成にあたり、温かいご協力を賜りました皆様に、心より感謝いたします。

平成25年3月
福岡県立美術館

Ⅱ. 事業実施要項

平成24年度スクール・ミュージアムバス事業実施要項
(福岡県立美術館・福岡県青少年科学館・財団法人福岡県教職員互助会合同事業)

1. 趣旨

福岡県では、生涯学習社会の実現を目指す社会教育の推進のために社会教育施設の機能充実、利用促進を掲げ、特色ある県民文化の創造のために子どもの文化芸術活動を推進するとともに、科学教育の普及、振興を図っている。

一方、学校教育では美術館・博物館あるいは科学学習センターなどと連携、協力を図りながら、それらを積極的に活用するよう配慮することが求められている。

こうした現状を踏まえ、福岡県教育委員会が推進する学校支援事業の一環として、福岡県立美術館、福岡県青少年科学館及び財団法人福岡県教職員互助会の三者で児童生徒の鑑賞活動や科学体験活動にかかる合同事業を行うことにより、情操教育、美術教育、科学教育の活性化及び地域文化の振興発展に寄与することを目的とし、スクール・ミュージアムバス事業を実施する。

2. 事業内容

(1) 実施内容

福岡県立美術館、福岡県青少年科学館及び学校が連携し、様々な学習プログラムを通して、児童生徒の新たな見方や感じ方、考え方を気づかせるとともに、文化施設利用のマナーについて自覚させる。

①事前打合せ

学習プログラムの内容や進め方、施設の確認等を行う。

②福岡県立美術館又は福岡県青少年科学館における学習

利用のマナーを学習したり様々な学習プログラムを体験したりする。

③事後学習

アンケートやワークシートの記入等を実施し、学習の評価を行うとともに、今後の教育活動の中に生かす。

(2) コース

①アートコース（福岡県立美術館）

児童生徒に美術館で実物の美術作品を直に鑑賞する機会を提供する。

②サイエンスコース（福岡県青少年科学館）

児童生徒がプラネタリウムや参加・体験型展示物を使った科学体験活動を通して科学に対する興味関心を高めたり理解を深めたりする機会を提供する。

3. 主催

スクール・ミュージアムバス事業実行委員会

(福岡県立美術館、福岡県青少年科学館、財団法人福岡県教職員互助会)

4. 実施期間

平成24年5月から平成25年1月まで

5. 対象校

県内公立の小・中・高等学校、中等教育学校、特別支援学校(両政令市立学校を含む)

6. 補助対象経費

(1) 児童生徒及びその引率教職員の観覧料及び入館料

①福岡県立美術館では、コレクション展及び企画展については、児童生徒及び引率教員の観覧料は免除される。

②青少年科学館では、来館の1週間前までに、減額・免除申請書(様式4)を提出することにより、県内の児童生徒及び引率教員の入館料は免除される。

(2) 往復バス借上料(JRや地下鉄、船、車椅子運搬用トラック等交通費を含む。及び有料道路使用料(実費相当額))

※往復の経路に体験活動を行う他の施設(九州歴史資料館等)に立ち寄ることも差し支えない。

7. 実施手続

(1) アートコースを希望する学校は福岡県立美術館に、サイエンスコースを希望する

学校は福岡県青少年科学館に、平成24年2月21日（火）（必着）までに、申込書（様式1）にバス借上等に係る見積書を添付の上、提出する。 ※郵送可
なお、申込みは、アートコース又はサイエンスコースのどちらか一方に限る。

（福岡県立美術館または福岡県青少年科学館への往復経路に他方の館があることから両方の学習プログラムを希望する場合は、アートコースに申し込む。）

また、平成24年度のスクール・ミュージアムバス事業採択予定数は、アートコースは30校程度、サイエンスコースは10校程度となる見込みである。

（2）スクール・ミュージアムバス事業実行委員会は申込書の内容を基に選考し、対象校を予算の範囲内で決定し、3月末までに学校に通知する。

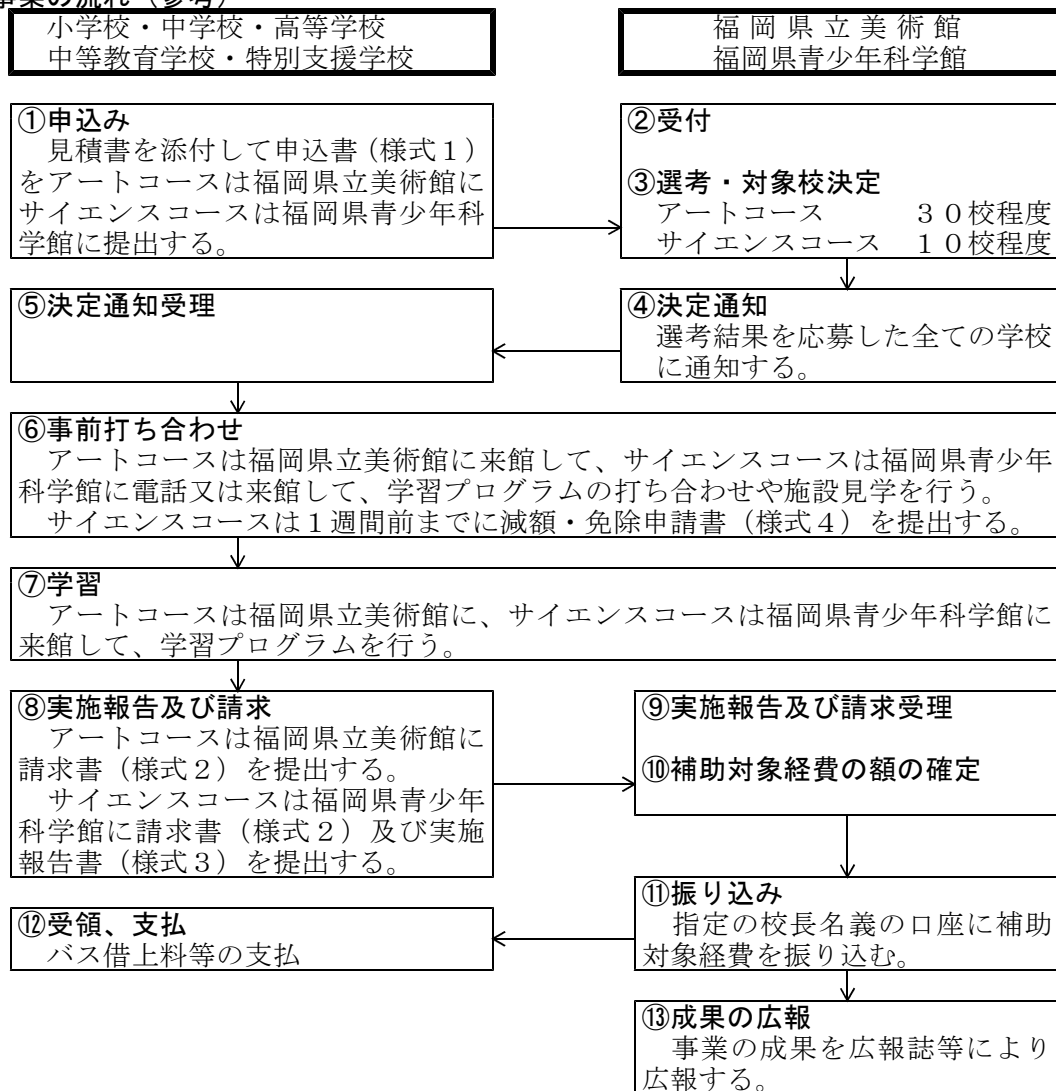
（3）学校は事業を実施したときは、1週間以内に、アートコースは福岡県立美術館に、サイエンスコースは福岡県青少年科学館に請求書（様式2）を提出する。また、サイエンスコースは併せて実施報告書（様式3）を提出する。 ※郵送可

（4）福岡県立美術館及び福岡県青少年科学館は、提出された請求書により、指定された口座（校長名義に限る。）に経費を振り込む。

8. 連絡先

■福岡県立美術館	〒810-0001	福岡市中央区天神5-2-1
TEL	092-715-3551	FAX 092-715-3552
■福岡県青少年科学館	〒830-0003	久留米市東櫛原町1713
TEL	0942-37-5566	FAX 0942-37-3770

9. 事業の流れ（参考）



Ⅲ. アートコース事業実施細目

福岡県立美術館は、福岡県における美術活動の促進と県民の美術に関する知識と教養の向上に寄与する展覧会活動などを長年続けてきました。特に近年、地域社会における美術館の役割が注目され、それに伴い美術館と学校との連携もますます重要になってきています。

アートコースは、福岡県立美術館における鑑賞プログラムによる学習を中心に行う事業です。

1. アートコース（福岡県立美術館）における鑑賞活動メニュー

プログラム名		対象	時間	場所	内 容
鑑賞マナー	必須	全学年	10分	展覧会場外	美術館での鑑賞マナーを聞く。
ギャラリートークA (小人数)	選択	全学年	30分 程度	展覧会場	作品を前に2名～12名程度でトークを聞きながら鑑賞する。
ギャラリートークB (学級単位)	選択	全学年	30分 程度	展覧会場	作品を前に学級単位でトークを聞きながら鑑賞する。
ギャラリートークC (学年単位などの 大人数)	選択	全学年	30分 程度	視聴覚室など (その後展覧会場 で鑑賞)	鑑賞前に展覧会や作品についての鑑賞のヒントや解説を聞き、 展覧会場で自由に鑑賞する。
館内・館外見学	選択	全学年	—	館内及び館外	美術館の施設見学と福岡県立美術館の歴史について聞く。 ※展覧会日程によって実施不可
鑑賞ワークシート	選択	全学年	—	展覧会場など	作品から感じたことを自分の言葉でまとめる。
事後アンケート	必須	全学年	—	展覧会場外	鑑賞後、アンケートに答える。

※学校のねらいによってプログラム内容の変更をお願いする場合があります。

2. 留意事項

(1) 実施期間

平成24年5月から平成25年1月まで（ただし実施対象展覧会会期中に限る。）

(2) 実施対象展覧会

- ①「コレクション展Ⅰ 特集：鹿児島寿蔵」＜3月17日（土）～6月3日（日）＞
- ②「永田萌展」＜5月25日（金）～7月8日（日）＞
- ③「コレクション展Ⅱ 夏休み特集：松本英一郎」
＜6月9日（土）～8月31日（金）＞
- ④「平成24年度第68回福岡県美術展覧会（県展）」〈公募展〉
＜9月4日（火）～9月30日（日）＞
- ⑤「郷土の美術をみる・しる・まなぶ vol 4 『児島善三郎と中村研一』」
＜10月6日（土）～11月25日（日）＞
- ⑥「ベルサイユのばら 40周年記念展」＜10月26日（金）～12月9日（日）＞
- ⑦「コレクション展Ⅲ 特集：光をさがして」
＜12月1日（土）～平成25年3月3日（日）＞
- ⑧「大企画展 福岡現代美術クロニクル 1970－2000」
＜平成25年1月5日（土）～2月11日（月祝）＞

※展覧会名称は変更する場合があります。

※展覧会内容は別紙「展覧会スケジュール」を参照してください。

(3) その他

展示会場の収容人数に限りがあるため、参加校の希望によっては、同日及び同時刻に事業を実施できない場合があります。

事業に参加された際、活動の様子を撮影させていただくことがあります。撮影した写真は、事業報告書や広報用資料等に掲載する場合がありますので、あらかじめご了承くださいますようお願いいたします。

不明な点については福岡県立美術館（電話０９２－７１５－３５５１）までお問い合わせください。

3. 鑑賞プログラム実施例

①小学校（参加児童数４０名２クラス）滞在時間９０分程度

鑑賞マナー（１０分）→展示会ⅠギャラリートークＢ（１０分：作品を見ながら）
→展示会Ⅰ自由鑑賞（２０分）→展示会Ⅱ鑑賞（３０分）→アンケート（２０分）

②小学校（参加児童数２４名１クラス）滞在時間１００分程度

鑑賞マナー（１０分）→展示会ⅠギャラリートークＡ（３０分：作品を見ながら）
→展示会Ⅱ自由鑑賞（３０分）→館内・館外見学（１５分）→アンケート（１５分）

③中学校（参加生徒数１８０名６クラス）滞在時間９０分程度

１～３組：午前美術館（午後に他の施設）

鑑賞マナー（１０分）→展示会ⅠギャラリートークＣ（視聴覚一斉：３０分）→展示会Ⅰ自由鑑賞（４０分）→アンケート（１０分）

４～６組：午後美術館（午前に他の施設）

鑑賞マナー（１０分）→展示会ⅠギャラリートークＣ（視聴覚一斉：３０分）→展示会Ⅰ自由鑑賞（４０分）→アンケート（１０分）

※事業内容の詳細は学校と美術館との打ち合わせで決定していきます。

※学校の規模等によって希望に添えない場合もございますのでご了承ください。

4. 鑑賞プログラム職員配分

児童生徒数	～ 40 名	～ 80 名	～ 120 名	120 名以上
館内案内誘導職員	1 名	2 名	3 名	3 名以上
鑑賞マナー	視聴覚室にて 1 名が説明			
ギャラリートツアー A(少人数)	3～4 名	3～4 名	—	—
ギャラリートツアー B(学級)	1 名	2 名	3 名	4 名
館内・館外見学	1 名	2 名	3 名	4 名

5. 鑑賞プログラムの進め方例

① 1 集団（全校・全学年・1 学級等）を 1 人の県立美術館職員が担当する場合（90 分）

【20 分】	職員紹介、県立美術館紹介、鑑賞マナー、展覧会紹介 等	職員 A 職員 B 補助
	↓ ↓ ↓	
【40 分】	4 F「コレクション展」 学芸員によるギャラリートーク 小集団活動	職員 C (学芸員)
	↓ ↓ ↓	
【30 分】	3 F「実行委員会展」 集団での鑑賞活動 自由鑑賞	職員 A 職員 B 補助

② 複数の学級を複数の県立美術館職員が担当する場合（90 分）

【15 分】	鑑賞マナー・県立美術館紹介 美術館所蔵作品鑑賞（4 F）			職員 ABC
	職員 A ↓	職員 B ↓	職員 C ↓	
【25 分】	1 組 3 F (実行委員会展①)	2 組 4 F (企画展)	3 組 3 F (実行委員会展②)	職員 ABC
	↓	↓	↓	
【25 分】	1 組 3 F (実行委員会展②)	2 組 3 F (実行委員会展①)	3 組 4 F (企画展)	職員 ABC
	↓	↓	↓	
【25 分】	1 組 4 F (企画展)	2 組 3 F (実行委員会展②)	3 組 3 F (実行委員会展①)	職員 ABC

IV. 事業実施校一覧

平成24年度 スクール・ミュージアムバス事業実施状況

小学校

	学校名	地区等	学年	児童生徒数	引率数	実施日	展覧会	実施内容				対応職員数
								マナー	トーク(学級)	トーク(小集団)	館見学	
1	上毛町立南吉富小学校	京築	5・6	48	4	6月6日 水	午前 永田萌展	●	●			4
2	小郡市立立石小学校	北筑後	4	27	2	6月15日 金	午前 永田萌展・コレⅡ展(松本)	●	●	●	●	3
3	壱上町立下城井小学校	京築	5・6	28	3	6月29日 金	午前 永田萌展・コレⅡ展(松本)	●	●	●		2
4	福岡市立東光小学校	福岡市	6	42	2	7月2日 月	午後 永田萌展・コレⅡ展(松本)	●	●	●		3
5	北九州市立貴船小学校	北九州市	6	22	2	7月3日 火	午前 永田萌展・コレⅡ展(松本)	●	●	●		2
6	筑後市立古川小学校	南筑後	5・6	38	3	7月4日 水	午前 永田萌展・コレⅡ展(松本)	●	●	●		3
7	筑後市立古島小学校	南筑後	4・5・6	40	4	9月12日 水	午前 県展	●	●	●	●	4
8	筑後市立二川小学校	南筑後	1・2	38	3	10月17日 水	午前 児島中村展	●	●	●		3
9	添田町立津野小学校	筑豊	1～6	18	10	10月26日 金	午後 ベルばら展・児島中村展	●	●	●		2
10	嘉麻市立牛隈小学校	筑豊	6	7	2	11月6日 火	午前 ベルばら展・児島中村展	●	●	●		3
11	行橋市立椿市小学校	京築	5・6	30	3	11月15日 木	午前 ベルばら展・児島中村展	●	●	●		3
12	北九州市立今町小学校	北九州市	5・6	60	5	11月22日 木	午前 ベルばら展・児島中村展	●	●	●		3
13	朝倉市立大福小学校	北筑後	3・4	65	4	11月30日 金	午前 ベルばら展	●	●			2
14	福岡市立賀茂小学校	福岡市	5	91	4	12月4日 火	午後 ベルばら展・コレⅢ展(光)	●	●	●		4
15	北九州市立粕谷小学校	北九州市	6	42	3	12月6日 木	終日 ベルばら展・コレⅢ展(光)	●	●	●		3
16	小郡市立東野小学校	北筑後	4	58	3	12月7日 金	午前 ベルばら展・コレⅢ展(光)	●	●	●		4
17	久留米市立西牟田小学校	北筑後	6	42	3	1月11日 金	午後 福岡現代美術展・コレⅣ展(光)	●	●	●		5
18	豊前市立宇島小学校	京築	5・6	66	4	1月18日 金	午前 福岡現代美術展・コレⅣ展(光)	●	●	●		6
19	福岡市立堅粕小学校	福岡市	4	27	2	1月24日 木	午前 福岡現代美術展・コレⅣ展(光)	●	●	●		5

計 789 66

中学校

	学校名	地区等	学年	児童生徒数	引率数	実施日	展覧会	実施内容				対応職員数
								マナー	トーク(学級)	トーク(小集団)	館見学	
1	八女市立南中学校	南筑後	3	66	5	6月4日 月	午前 永田萌展	●	●	●	●	5
2	福岡県立輝翔館中等教育学校	県立	2	112	5	11月1日 木	午前 ベルばら展・児島中村展	●	●	●		6
3	春日市立春日北中学校	福岡	1	127	7	11月2日 金	午後 ベルばら展・児島中村展	●	●	●	●	6
4	北九州市立則松中学校	北九州市	2	186	9	11月9日 金	終日 ベルばら展・児島中村展	●	●	●		6
5	筑後市立筑後北中学校	南筑後	1・2・3	37	3	11月23日 金祝	午前 ベルばら展・児島中村展	●	●	●		4
6	直方市立植木中学校	北九州	2	48	6	12月19日 水	午前 コレクション展Ⅲ(光をさがして)	●	●	●		4

計 576 35

高等学校

	学校名	地区等	学年	児童生徒数	引率数	実施日	展覧会	実施内容				対応職員数
								マナー	トーク(学級)	トーク(小集団)	館見学	
1	福岡県立伝習館高等学校	県立	定時制1・2・3・4	28	8	6月16日 土	午前 永田萌展・コレⅡ展(松本)	●	●	●		4
2	福岡県立鞍手高等学校	県立	1	39	2	1月17日 木	午前 福岡現代美術展・コレⅣ展(光)	●	●	●		5

計 67 10

特別支援学校

	学校名	地区等	学年	児童生徒数	引率数	実施日	展覧会	実施内容				対応職員数
								マナー	トーク(学級)	トーク(小集団)	館見学	
1	福岡県立直方養護学校(高等部)	県立	3	39	15	7月6日 金	午前 永田萌展・コレⅡ展(松本)	●	●			6
2	福岡県立久留米聴覚特別支援学校(中学部)	県立	1～3	13	8	10月30日 火	午前 ベルばら展・児島中村展	●	●	●		4
3	福岡県立久留米聴覚特別支援学校(小学部)	県立	1～6	28	12	10月31日 水	午前 ベルばら展・児島中村展	●	●			5
4	久留米市立久留米特別支援学校(中学部)	北筑後	3	17	16	11月16日 金	午前 ベルばら展・児島中村展	●	●	●		5
5	福岡県立田主丸特別支援学校(高等部)	県立	1～3	16	19	12月5日 水	午前 ベルばら展・コレⅢ展(光)	●	●			5

計 113 70

	児童生徒数	引率数	総計
合計	1,545	181	1,726

V. 事業実施内容

1. 事前打合せ

【美術館案内リーフレット】(P43 参照)

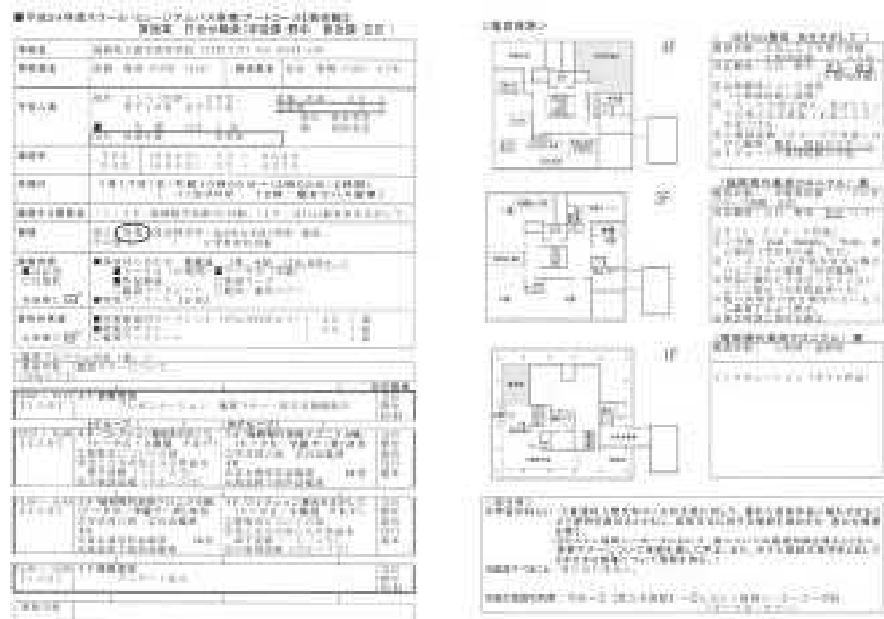
当館では事業実施日の1カ月ほど前を目安に学校担当者に来館していただき、事前打合せを実施している。内容は、①当館における鑑賞学習の方針。②児童生徒、引率教員等の人数。③到着出発時刻及び滞在時間、昼食の有無、バス等の駐車時間。④学習プログラムの内容と活動時間。⑤配慮すべきこと。⑥学校側の学習のねらい。⑦児童生徒の発達段階や実態についての確認。⑧館内の施設見学と学習プログラム全体の流れ等である。また、対象展覧会のちらしや美術館案内リーフレットを児童生徒数渡し、事前指導用マニュアルを活用しながら学校での事前指導に役立てていただくよう依頼している。



事前実施案

(関係資料

P 41参照)



2. 鑑賞マナー

当館では、児童生徒が鑑賞学習に必要なマナーやルールを気持ちよく身につける学習プログラムにしている。鑑賞マナーは、各学校で事前指導を行っていただき、県立美術館において復習しながら指導している。このことで児童生徒は、マナーの大切さを再確認しながら自覚する姿が多く見られる。



【 鑑賞マナーの説明を受ける児童 】



【視聴覚室で鑑賞の仕方について学習する生徒】

鑑賞マナーと合わせ、県立美術館が 48 年前に建てられたことや収蔵作品数が約 1 万点であること、収蔵作品の作家の多くは福岡県出身者や福岡県に縁のあることなども説明している。

また、県立美術館収蔵作品を提示し、福岡県からはすぐれた作家が輩出しており、文化芸術に対する関心が高く盛んな県であることも説明し、郷土や美術に興味関心を高めるようにしている。

美術館職員による鑑賞マナーの説明内容は主に次の 4 点である。

- ① 展覧会場では、他のお客さんに迷惑にならないように静かに活動すること。
- ② 作品にさわらないようにすること。
- ③ 美術館や博物館では鉛筆のみ使用できること。
- ④ 館内では、飲食ができないこと。

◆ 視聴覚室における鑑賞マナー説明時のスライド【鑑賞マナー「4 つの約束」】◆

かんしやう さくひん
鑑賞（作品をみるとき）のマナー

ちい こえ はな
1 小さな声で話そう。

ほか
他の人の
めいわくに
ならないよう
にしよう。

とお
見ている人の
前を通らない。

かんしやう さくひん
鑑賞（作品をみるとき）のマナー

さくひん ひと たいせつ
2 作品や人を大切に。

さわ ひん
作品をさわったり
人にぶつかったり
しないように、
しずかに参こう

かべにもよりかからないでね。

かんしやう さくひん
鑑賞（作品をみるとき）のマナー

3 メモはえんぴつで。

び じゅつかん
美術館や
はくぶつ かん
博物館では、
えんぴつ い がい
鉛筆以外は
使えません。

かんしやう さくひん
鑑賞（作品をみるとき）のマナー

の たべ
4 飲んだり食べたり
できません。

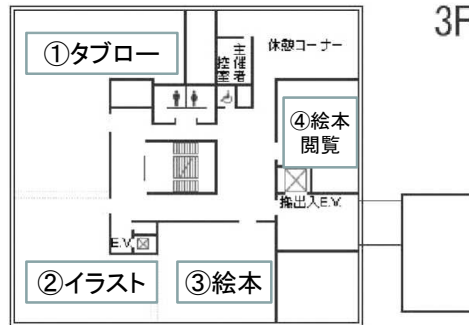
3. 展覧会

永田萌 ―夢みるチカラ展

H24.5.25～7.8



「永田 萌
―夢みるチカラ」展



「カラーインクの魔術師」と称され、イラストレーター、絵本作家として現在も活躍する永田萌。本展のために描きおろした新作をはじめ、季節に合わせた代表作や絹絵作品など約160点で、夢と色彩あふれる Moe World を紹介。

実施状況や児童生徒の様子

1. 事前指導



【展覧会紹介スライド】

展覧会場に入る前の事前学習では、永田萌が使用している画材や制作の様子を紹介したり画風の特徴を話したりして、どのような作品を今から鑑賞するのかをわかりやすく、説明した。

2. 展覧会場での様子



展覧会場の中では、4つのコーナーごとに職員を配置し、展示されている作品の紹介を行った。カラーインクで描かれたコーナーについては、実際にカラーインクがどんな画材であるかを実物を見せて説明した。子どもたちは、画材の特徴である透明感を活かし、美しい画面を作っていることを作品を通して実感することができていた。

【カラーインクの紹介】

こっちは花畑が見えるよ！



作品を鑑賞するときは、正面からだけでなく、横からも見てみるように紹介した。屏風の作品では、「左側からだ、と、花畑が見えたのに、右側からだ、と、見えなくなったよ！」と驚きの声をあげながら、友達と何度も見る角度を変えながら鑑賞する姿が見られた。

【横から屏風を鑑賞している児童】

永田萌が手がけた郵便切手を展示しているコーナーで、子どもたちは、これまで実際に使用したことのある切手との出会いがあり、「あっ、この切手、私の家にもあるよ！」と話す姿が見られた。美しい花や妖精が描かれた切手を一枚一枚、展示ケースをのぞき込むようにして鑑賞していた。

この切手見たことある！



【郵便切手のイラストを鑑賞する児童】

絵本の挿絵コーナーでは、おやゆび姫や不思議の国のアリスなど、子どもたちにとっておなじみの絵本や永田萌がストーリーも制作した人気の絵本などを鑑賞した。特に「クリコさんと笑わないくま」のコーナーでは、クマのぬいぐるみの展示もあり、人間のように振る舞い、あまり笑わず、まじめに働くワラクマくんが、「先生と似てるかも・・・」と話す子どもたちがいた。

先生に似てるかも・・・



【絵本の挿絵コーナーでの様子】

3. 活動後のふりかえり

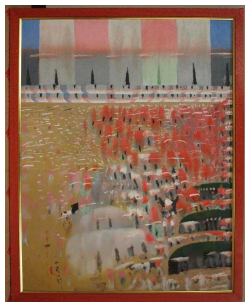
美術食官は、子どもとかははむずかしい所だと思ったけれども来てみてすごくおもしろくて、次もまた来て色々な作品を見て自分の心に残った作品をお楽ししたい。

初めて訪れた美術館の印象は、想像していたよりもとても楽しい場所としてとらえた子どもたちが多かった。心に残る作品との出会いがあり、今後も鑑賞したいという意欲が見られた。

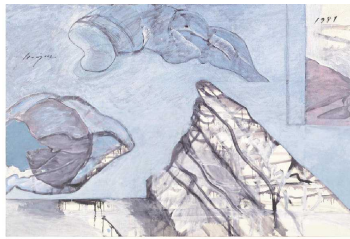
【交流活動後の感想】

コレクション展Ⅱ 夏休み特集：松本英一郎 風景は微細動する

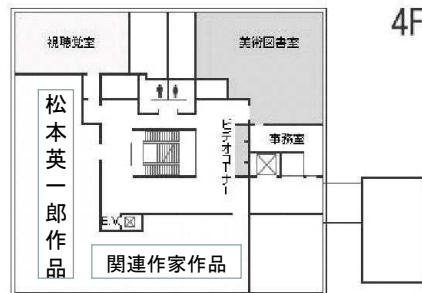
H24.6.9～8.31



松本英一郎「花と雲と牛」



野見山 暁治 「遠ざかった風景」



4F

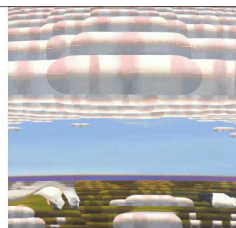
ユーモラスな風景、退屈な風景、幻想的な風景。洋画家・松本英一郎(1932-2001)は人生を通して風景を見つめつづけ、たくさんの風景画を描きました。自然の美しさを写実的にとらえたものではありませんが、松本の「風景」は私たちの身体に語りかけてきます。

実施状況や児童生徒の様子

1. 事前指導

本展覧会では、鑑賞マナーを学習した後、【資料－1 スライド①】の左「さくら・うし」を提示。「色」「形」「モチーフ」など絵画の構成要素に目を向けさせるために、「何が描かれていますか？」と誰にでも答えやすい問いかけをした。子どもたちは、「上にウインナーみたいなものが見えます」「下の方に羊みたいなものがあります」など自分に見えるものをつぶやく。

- ①「(絵の中にある) 目に見えるものからの広がり」、
 - ②「(心の中に想像する) 目に見えないものからの深まり」
- を話し合う「風景画」へのアプローチ



く る め し まつもとえいいちろう
久留米市 松本英一郎
「さくら・うし」



ふくおか し てらだ けんいちろう
福岡市 寺田健一郎
なつ にわ
「夏の庭」

【資料－1 スライド①】

次に、「どんな色が見えますか？」と問うと、今度は色に着目し、「白」「青」「水色」「ピンク」「緑」などと答える。「よく見ると真ん中の下の方に紫の線が見えます」「上の方はピンクと白がしましまになっています」などと言う子もいて、次第に子どもたちが能動的に絵を見ようとする反応が現れるようになる。

抽象的でややもすると「分からない」と拒絶されがちな絵を前にして、自由に見ることの楽しさを味わってもらうために、あえて事前指導で私たちはこのような問いかけや対話を行うようにしている。絵の中にある「見えるもの」に注目することで、子どもたちは、絵に描かれている世界に浸り始め、自ら絵を観るようになっていく。

本展覧会では子どもたち自身が想像する「風景」について考えたり感じたりするアプローチも試みた。しかし、小学生や中学生にとって風景画という概念は難しく、このアプローチはうまくいかなかった。そこで、「風景画」の意味について補足説明を行った。また、数枚の風景画をスライドで提示することで、風景をテーマとする本展覧会場への意識付けを図り、お気に入りの作品(「風景画」)を探す活動へと導いた。

2. 展覧会場での様子

【写真－１】は自分のお気に入りの作品を探す前に引率教員と小集団活動のシミュレーションをしている様子である。引率教員になぜこの絵が気に入ったのかを尋ね、その理由を答えてもらった。



また、「この絵のどんな色が好きか」「自分には別の物に見えるがどう思うか」など質問したり「自分はこの絵のこんなところがおもしろい」と意見を言ったりして小集団活動をシミュレーションしてみせた。



シミュレーション後、子どもたちは一人一人自由に鑑賞しながらお気に入りの作品を探し、その後小集団活動に取り組んだ。【写真－２】は各グループでの小集団活動の様子である。子どもたちは、自分が選んだ作品について気に入った理由を述べたり絵画作品を見て感じたことを表現したりした。また、【写真－３】のように学芸員が小集団活動に入り、子どもたちの思いに耳を傾けたり子どもたち同士の会話が進むように支援した。



【写真－３ 学芸員も一緒に小集団活動】 【写真－４ みんなでじっくり見て語り合う】

小集団活動の他にも、【写真－４】のようにみんなで一つの作品をじっくり見ながら、見えるものや感じることなどを話し合い、風景画の中で寛ぎながらの鑑賞も行った。

3. 活動後のふりかえり

活動後には、「絵という一つのものでこんなにも人が楽しめるものだなあ、おもしろいなあ」と鑑賞を味わった感想が見られた。風景画にかこまれた展覧会場の中で、子どもたちがそれぞれの見方や感じ方で楽しめたようである。

【資料－２ 活動後の感想】

ほくは二の美術預官で絵の一個の物でこんなにも人が楽しめるものだなあ、おもしろいなあと思いました。とくに松本さんの風景NO.4は下の方が見えたり、また上にも見えたり、いろいろなものがそこそこうてきて、集まりました。また美術預官に来たいと思います。

第68回福岡県美術展覧会(「県展」) H24.9.4~H24.9.30



県民から広く作品を募集し、その優れた成果を展示することで、創造意欲を高め、美術を通した豊かな生き方を支援するとともに、福岡県美術協会会員の作品を展示し、福岡県における美術活動のより一層の充実をめざそうとする展覧会。

I期 書 9/4~9/9

II期 洋画 9/11~9/17

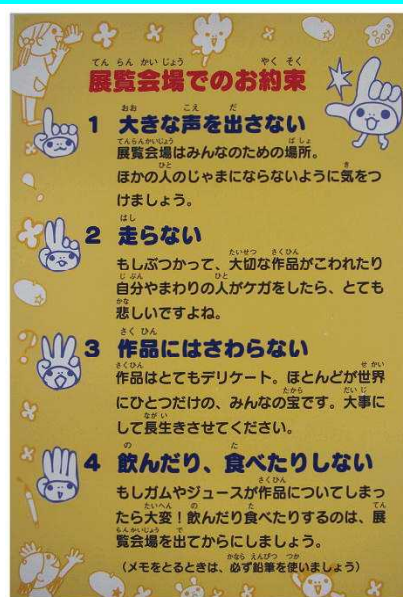
III期 日本画・彫刻・グラフィックデザイン 9/19~9/23

IV期 工芸・写真 9/25~9/30

実施状況や児童生徒の様子

1. 事前指導

本展覧会では、視聴覚室でのスライドの代わりに、4階廊下のスペースにおいて事前指導を行った。右【資料-1】を使って、美術館紹介及び展覧会場におけるマナーやルールについて説明した。



【資料-1 美術館マナー説明ボード】

【写真-1 美術館紹介の話を聞く児童】

2. 展覧会場での様子

本展覧会は、全展示室が「県展」作品である。1階と4階において、美術協会会員の方に話をしていた。

内容は、主に下記のとおりである。

- (1) 県展作品の紹介及び解説
- (2) 創作活動に関する講話
 - ・絵を描くときの構図の決め方
 - ・木版画のテーマ
 - ・作品制作の様子や気持ち など

子どもたちは、【写真-2】に見られるように、美術協会会員の方の話を熱心に聞いていた。



【写真-2 美術協会会員の話を聞く児童】

美術協会会員の話の後で、一人一人自由に観覧してまわる時間を設定し、自分のお気に入りの1点を選ばせた。【写真－3】は、その活動中の一場面である。子どもたちは美術協会会員に対して「どんな気持ちで絵を描いたのか」「作品を描くときに苦労したところはどんなところか」などの質問を積極的にしていた。美術協会会員の方は、「とにかく絵を描くことが大好きで、熱中して描いていますよ」「絵は自分の描きたいように自由に描いていいのですよ」と楽しそうに答えてくださっていた。



【写真－3 美術協会会員と対話する児童】

【写真－4】は、小集団になり、見つけた自分のお気に入りの1点について交流している様子である。ちょうど中学生が職場体験、高校生がインターンシップのために来館していたので、小集団活動に参加してもらい、小学生の交流活動をサポートしてもらうように場を仕組んだ。



【写真－4 職場体験の中学生のサポートを受けながら小集団活動を行う子ども】

各小集団でのグループ活動では、自分が選んだ理由を「色がきれい」「形がおもしろい」「描いてあるものがカッコいい」「描き方がていねいすごいです！」など、思い思いのお気に入りポイントを紹介し合うことができた。また、自分のお気に入りポイントを紹介するだけでなく、友達を選んだ絵のおもしろいところや気付いたことなどを交流した。自分と友達の見方や感じ方がいろいろ違うことを楽しみながら交流する姿を見ることもできた。



3. 活動後のふりかえり

【資料－2】の児童の感想から、実際の作家との交流や友達との交流を通して、「人の思い」を感じたことが伺われる。

【写真－5 活動のまとめを書く児童の様子】

この美術館に初めて来て、様々なジャンルの作品があったのでびっくりしました。いろんな人達の絵を見て、いろんな思いを感じました。学校で絵をかきるときは、今日見た絵などを思い出しながら自分の気に入る絵をかきたいです。

【資料－2 児童の感想】

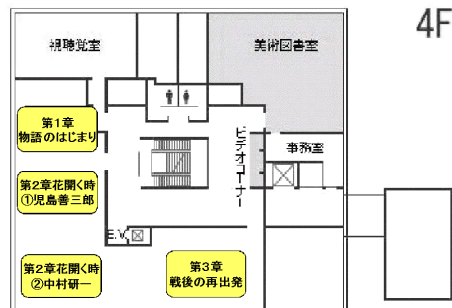
郷土の美術をみる・しる・まなぶvol.4 H24.10.6～11.25

児島善三郎と中村研一 福岡ライバル物語

ZENZABURO KOJIMA



KENICHI NAKAMURA



対照的な作風で、対照的なコースを歩みながらも、修猷館の絵画同好会である「パレット会」の時代から生涯にわたり交友を続け、互いに切磋琢磨しあった児島善三郎と中村研一のライバル物語を、約 60 点の作品により紹介。

実施状況や児童生徒の様子

1. 事前指導

【展覧会紹介スライド】



展覧会場に入る前の事前指導では、スライドを使って特集している二人の作家を紹介した。中村研一の絵をトリミングしたり、描かれていない部分を書き足したりして、どの構図が好きか選ばせてみた。また、児島善三郎の絵では、背景色を変えた例をみせて、どの色が一番ふさわしいか考える活動を入れた。スライドの画面には、問いかける文字を挿入し、聴覚に障害を持つ生徒にも視覚的に情報が伝わるよう配慮した。

2. 展覧会場での様子



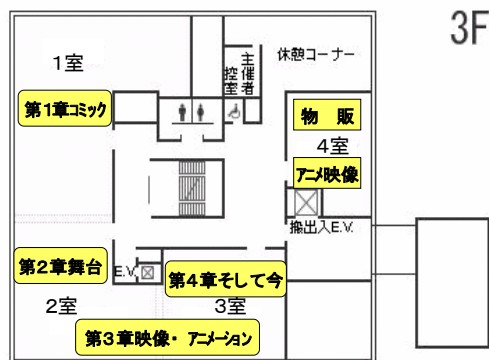
会場内では、まず、子どもたちを展覧会メイン作品の前に座らせ、学芸員より、この展覧会の見所や作品を鑑賞した後に考えてほしいことなどを話した。

子どもたちは、会場に入る前にスライドでメイン作品を見ていたので、スライドで見たときと実物を見たときの違いを学芸員に話したり、良さを友達に語ったりする姿が見られた。

【学芸員からの話】

40周年記念ベルサイユのばら展

H24.10.26~12.9



少女漫画誌「週間マーガレット」に連載され、一大ブームを巻き起こした池田理代子の「ベルサイユのばら」。連載から40周年を迎えるのを記念した本展では、コミック原画のほか宝塚歌劇の舞台、アニメーション、グッズなどさまざまな角度から世代や国境を越えるその魅力を解き明かした。

実施状況や児童生徒の様子

1. 事前指導

本展覧会は、40年前に週刊マーガレットに連載された劇画（漫画）「ベルサイユのばら」の原画やアニメーション、宝塚舞台や衣装の展示等を中心とした内容であった。

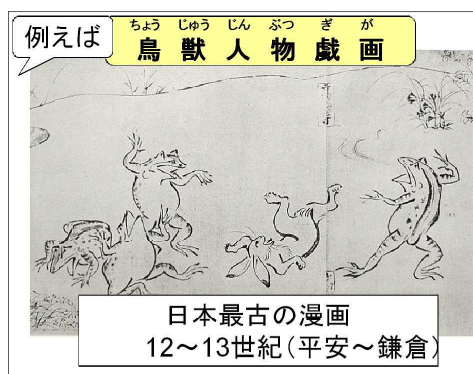
そこで、子どもたちに劇画（漫画）のもつ歴史的美術的価値あるいは日本が世界に誇るアニメ文化といったよさを感じてもらえるような学習プログラムを構成した。

そのために、日本最古の漫画である「鳥獣人物戯画（スライド①）」や世界の名だたる画家たちにも大きな影響を与えた葛飾北斎の「北斎漫画（スライド②）」を提示し、漫画表現のよさやおもしろさなどをとらえさせるようにした。子どもたちは、見たことや親しみがある2つの作品を楽しむように見つめていた。

また、「ベルサイユのばら」の歴史的舞台であるフランス革命や主人公オスカルを中心とした物語の人物相関図などをわかりやすく提示し、「ベルサイユのばら」を知らない子どもたち

にも「ベルばら」世界を理解させ、作品や展示内容に興味を持つことができるようにした。

池田理代子氏の劇画表現は、現在活躍中の漫画と比較するとその表現の豊かさや多様さが際立つ。【資料－3 スライド③】ではその「コマ割り」「吹き出し」「オノマトペ」な



【資料－1 スライド①】

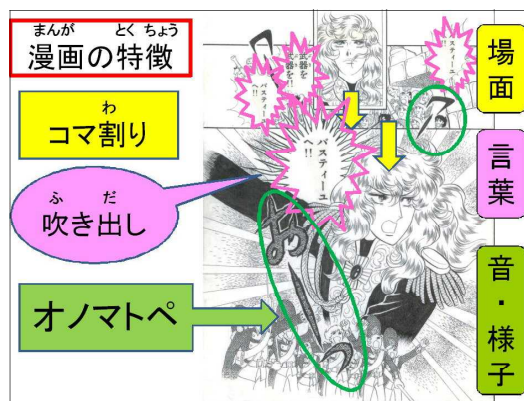


【資料－2 スライド②】

どの優れた表現方法に着目させることで、子どもたちが慣れ親しんでいる漫画表現のよさにも目を向けさせるようにした。

2. 展覧会場での様子

展覧会場では、普段意識せずに読んでいた漫画の中にも、様々な工夫がなされていることに気づきながら、展示している原画作品の一つ一つに目を見張っていた。【写真－１】



【資料－３ スライド③】



【写真－１ 原画に見入る児童たち】



【写真－２ 引率教員と絵を鑑賞する児童】

また、【写真－２】のように、引率の先生方が子どもたちとほどよい声の大きさに熱心に語らいながら作品を鑑賞されていた。教師が子どもたちと同じ目線に立ちながら、一緒に作品に描かれている劇画表現の素晴らしさをじっくり味わうことで、作品の見方や感じ方、あるいは感動を共有化し、事後の学習や指導に生かすことが増えると考えられる。

3. 活動後のふりかえり

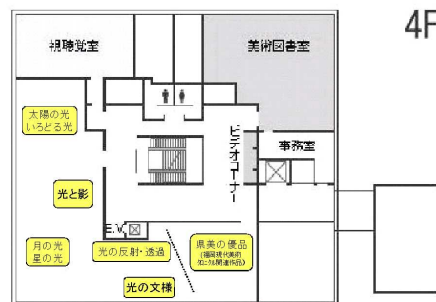
活動後の感想【資料－４】に見られるように、子どもたちは作品の素晴らしさや工夫に気づき、本展覧会での鑑賞を楽しむことができた。

最初は、絵などを見るだけで、ぜんぜん楽しくないだろうなと思っていたけど、実際に見てみると、工夫している所や、たくさんぬり重ねている所が分かってすばらしいなと思いました。好みの絵などが見つかったです。

「ヤルサイコ」の「バラ」の原作がとてもすごかった。「ヤルサイコ」の「バラ」のマンガをほしくなったり、表情がすごかったりしていたのでとても楽しく回ることができました。

【資料－４ 漫画表現のよさやおもしろさを改めて発見した子どもの感想】

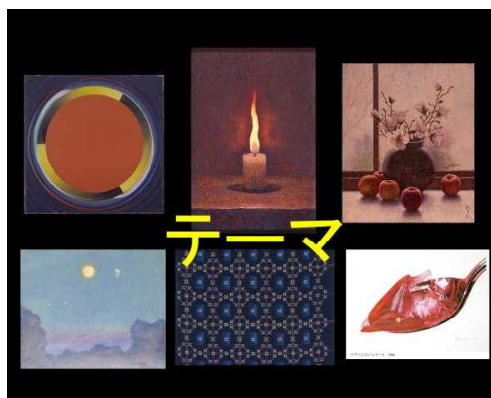
コレクション展Ⅲ 特集：光をさがして H24.12.1～H25.3.3



太陽や月など、自然の光そのものをテーマとした油彩画や、やわらかい光に照らされた美しい情景を描く日本画、また光を図案化した工芸など、光をキーワードとして高島野十郎や川辺御楯、松枝玉記らのコレクションを前後期に分けて約60点を紹介。

実施状況や児童生徒の様子

1. 事前指導



【展覧会紹介スライド】

会場に入る前、子どもたちに展覧会の紹介スライドを見せた。スライドでは作品の中に描かれているものが何に見えるか尋ねてみたり、光の向きに着目させたり、作品のテーマを考えさせたりして、鑑賞する際の見方や楽しみ方について知る構成にした。



2. 展覧会場での様子

会場内では、子どもたちを4～6人程度の小集団に分け、下記のような活動を行った。

- ① グループ活動内容の説明
- ② 各自お気に入りの作品選出
- ③ グループ内での交流

①では、子どもたちに具体的な活動への見通しを持たせるために、美術館職員と引率教員の数名で、活動内容をシミュレーションした。

【職員、引率教員によるシミュレーション】



【お気に入りを探る児童】

光を感じる1点が決まったところで、グループになり、各自なぜその1点にしたのか、みんなに紹介するために、自分の選んだ作品の前に案内し交流活動を行った。グループの仲間もただ選んだ理由を聞くだけでなく、その内容から質問したり、作品から感じたことを述べたりして交流を深めた。各グループの進行役は、職員や引率教員が務め、交流が円滑に進むよう働きかけをした。

①のシミュレーションの後、子どもたちは、展覧会場を巡って光を感じる1点(お気に入りの作品)をさがす活動をした。一人一人のペースで見たところから自由に作品を見て、感じたことを時折友達と話しながら最終的な1点を決める子どもたちも見られた。



【グループ内での交流活動】



【鐘の音に聞き入る児童】

活動の最後に、展示している鐘を紹介し、どんな音がするか子どもたちに想像させた。その後、実際に鐘をたたいて見せて、想像していた音との違いを発表させた。子どもたちの中には、鐘の音を聞いて、お寺の鐘の音に似ているといった感想が出ていた。音も光と同じように、いったん放たれると形を無くしてしまうけれど、その時感じた心は、みんなの心に残っていくことを話した。

3. 活動後のふりかえり

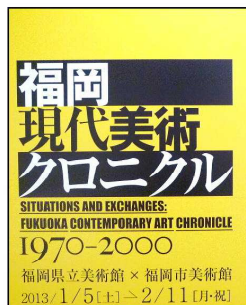
美術館に来たことが、会っても、今日が一番楽しかった。いつもは普通に「見てへ〜」と見るだけだったけど、こうやって、くりくくり見ていくと、めり方、色まで、~~おもしろ~~ ~~おもしろ~~ かいところまで見れた。最後のグループで話しをしたけど、みんな、感じ方がちがうなるほどと思った。自分の気に入ったものを見てもう、たとき、いろいろな質問がでて、深く考えた。

【交流後の感想】

活動終了後のふりかえりの時間における感想からは、これまで美術館へ来館したことがあった子どもたちも、今回この鑑賞プログラムを体験したことで、美術館は楽しい場という認識になったようだ。さらに、作品を鑑賞して自分と友達が違う捉え方、感じ方を知り、深く考えるきっかけとなったようだった。

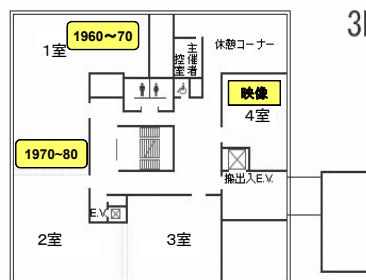
福岡現代美術クロニクル1970-2000

「九州派」以降の美術家たちは何を考え、何を求めてきたのか。強烈な個性によって切り拓かれた福岡の現代美術を引き継ぎ、作家同士で（あるいは都市と街と）交流することで美術をめぐる状況をつくろうとしてきた30年間を振り返り、現在を見つめ直す展覧会。



H25.1.5~2.11

3F



実施状況や児童生徒の様子

1. 事前指導

本展覧会では、担当学芸員と子どもたちとの対話型鑑賞活動

- ①現代美術の難しさを「素材」に着目させることで、「おもしろさ」としてとらえさせるアプローチ
- ②目の前の作品から作家の人物像に迫ったり人の営みや思いについて迫る

の時間を設定し、「①作品がどんな素材からできているか。」「②作品をとおして作家について考えてみる。」の2点からアプローチするように焦点化した。そこで、事前指導においては、展覧会で展示している美術作品が様々な「素材」からつくられていることを紹介し、子どもたちが「素材」に着目して美術作品を見るようにした。



【スライド資料－1】



【スライド資料－2】

2. 展覧会場での様子

会場内では、「Gold Metallic(1)」〔村上勝作〕と「Work 1980年」〔和田千秋作〕の2つの作品の前に子どもたちを座らせ、まずはじっと作品を見つめさせた。

T 学芸員：「さて、それぞれの作品はいったいどんなもので作られているのでしょうか。」

C：「金属かな」「ひもみたいなものもあります」「紙かなあ」「スタンプ？」…などなど。

子どもたちは、じっと作品を見つめながら、



【写真－1 作品を見つめる児童】

思い思いに自分の考えをつぶやき始めた。

T 学芸員：「では、ぐっと作品に近づいてみよう。作品にふれないようにね。」

子どもたちは、眼を見開いてぐっと作品を見つめる。

C「木で作られているよ」「丸いのがあって何だろう」「キャプションに大豆って書いているよ」「何で大豆なんか使ってるんだろう」…

友達と話したり学芸員に質問したりしながら、子どもたちは作品と自分との距離をぐんぐん縮めていく。

T 学芸員「どんなもので作られているか、だんだんわかってきたね。じゃあ2つの作品のどちらの作家に会ってみたいかな？」という問いを投げかけた。また、選択肢として、「今は、どちらの作家にも会いたくない人がいてもいいよ」と声をかけた。子どもたちにとって美術館が、多様な価値観の中で揺れたり安心したりする空間になるために。



【写真－2 ぐっと近づいて観る生徒】



【写真－3 会いたい作家は？】

「なぜ大豆を作品に使ったのか聞いてみたいから、村上さんに会って聞いてみたい」「丸いスタンプのようなものを押している時の気持ちを和田さんに聞きたい」などの発言があり、「作品の素材」や「制作時の様子や気持ち」から作家に思いを馳せる姿が見られた。

3. 活動後のふりかえり

活動終了後のふりかえりの時間でのワークシートで、下記のような感想が見られた。

作者が、どんな気持ちで作ったかが少しずつ分かるようにになりました。これからの授業でも、作者の気持ちがいかに分かるように、できたらなと思います。

初めて美術館に来て、このなかへも、心に残る作品ばかりでした。水色、土色、画だけでなく、木材、プラスチック、身の周りにある物などを使った作品もあり、すごく興味をもちました。どの角度から見ても、はなれて見ても、近くで見ても、その絵について感じるものが違うということを改めて感じました。

【資料 鑑賞活動後の感想】

感想に見られるように、作者の気持ちを考えたり様々な素材に着目して作品を鑑賞したりすることができた。また、近くに寄ったり遠くに離れたりといった作品と自分との向き合い方を多様に鑑賞することもできるようになったと考える。

アートカードを使った鑑賞

北九州市立鞘ヶ谷小学校

「卒業をテーマに展覧会を企画しよう」



福岡県立美術館所蔵の作品が掲載されたアートカードを使用。掲載作品は福岡にゆかりのある作家を中心としており、平面の絵画だけでなく、彫刻や工芸などもある。46点ひと組で、ポストカードサイズ6セット、A3サイズ1セットを使用した。

実施状況や児童生徒の様子

1. 活動内容の説明



【活動内容の説明】

鞘ヶ谷小学校では、通常の鑑賞プログラムに加えて、アートカードを使って、各小集団ごとに展覧会を企画する活動を仕組んだ。対象の子どもたちは、小学6年生。展覧会のテーマは「卒業」。卒業式の時に体育館に展示する作品を考えてみようという課題を与えた。課題設定の理由は、子どもたちにとって身近なテーマで展覧会を企画したほうがアイデアが出やすいと考えたためである。最初に、このアートカードをどのように使うのかを全体に説明し、活動の見通しを持たせた。

2. 活動の様子



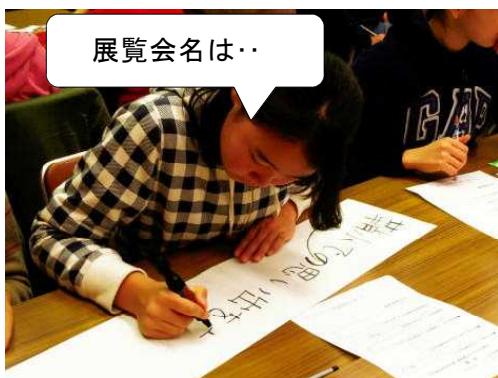
【各自で作品を選んでいる様子】

各自で卒業式に飾る作品を選んだ後、各集団ごとに集まり、それぞれ選んだ作品を紹介し、最終的にどの作品にするのかを検討させた。作品を選ぶ際、なぜその作品にしたのかを友達に説明できるようにしようと指示していた。小さなカードを手し、選んだ理由を語る子どもたちの姿が見られた。

子どもたちには、壁に貼られたアートカードをまずは鑑賞させ、各自どの作品が卒業式にふさわしいかを考えさせた。選ぶ際に、6年間の思い出や学校の風景なども考慮すると良いかもしれないとアドバイスした。



【小集団の中で作品を検討する様子】



展覧会名は…

各小集団で作品を決めた後、展覧会名を考えさせた。選んだ作品や卒業からイメージする言葉をみんなでいくつも出させ、その言葉をつないで展覧会の名前を決定した。各小集団ごとに企画した展覧会の紹介をするために、展覧会名を大きめの紙に書かせた。

【展覧会名を記入している様子】

活動の最後に、各小集団ごとに「卒業」というテーマのもと、どんな作品を選んだのか、選んだ理由と、展覧会名に込めた思いを発表した。山を描いた作品を選んだ集団では、連なる山々が卒業しても終わりではなく、過去の経験を未来へ活かしたい思いに見えると語ってくれたり、たくさんの動物が描かれた作品では、中学校に入学して新しい友達との出会いを予感させる感じがすると説明してくれたり、企画した展覧会に込めた思いを話していた。



窓は小学校での思い出を表していると思います。

【各集団ごとの発表の様子】

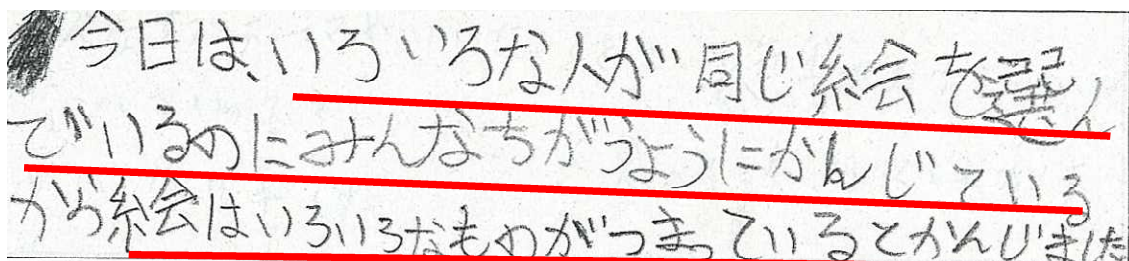


心と心が通じ合う
友達がいれば未来
を生きていける。

【先生方の発表の様子】

引率した先生方も卒業する子どもたちのために考えた展覧会を発表していただいた。展覧会名は「未来へ歩き出そう」。未来へ向かって進んでいくためには、どんな力が必要かを作品を使って紹介していただいた。蝋燭を描いた作品では、この蝋燭のような温かな心をこれからも持っていれば、友達の心もあたたかくすることができると思う、と語っていた。

3. 活動後のふりかえり



【活動後の感想】

活動後のふりかえりでは、卒業という同じテーマで選んだ作品でも、人それぞれに違った見方、考え方があることに気づく機会となっていた。引率した先生からも「6年生という発達段階で、この卒業をテーマとした活動は、子どもたちの感性を育む上で大変有効だった」と評価していただいた。

題材名 展覧会を企画しよう

題材のねらい

アートカードを使って、小集団（班）毎にテーマに沿った展覧会を考えることで、友達とのコミュニケーション能力を高め、豊かな想像力を養うことが出来る。

準備 A3版アートカード46種 アートポストカード46種×6セット

指導過程

段階	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の規準・基準（方法）	形態	配時
導入	1 本時の学習内容を知る。 めあて — アートカードを使って、テーマにあった展覧会を企画しよう	・本時の学習内容と方向を確認する。		— 斉	10分
	(1)カードの図版は福岡県立美術館所蔵品であることを知る。 (2)展覧会のテーマを知る。	・本時の学習内容と活動を明確化するために学習プリントを配布する。 ・展覧会の共通テーマ「卒業」を児童に伝える。 ・卒業ときいて思いつくイメージを発表させる。 ・卒業式が実施される体育館に飾る作品として、どんなものがよいか考えて選ぶよう伝える。			
展開	2 サブテーマに合った作品を選ぶ。 (1)各自で卒業のイメージにあった作品を選ぶ。 (2)小集団（班）の中で選んだ理由を説明する。 (3)サブテーマを考える。	・どんな作品があるのか、班で鑑賞させる。 ・各自が選んだ理由を整理させるために、学習プリントの項目にしたがって記入させる。 ・各自が選んだ理由を述べさせる。 ・小集団（班）の中で「卒業」のサブテーマを検討させる。 ・卒業からイメージして出てきたキーワードを班の中でつないでいき、最もテーマに合うサブテーマを決めさせる。	【関】テーマにあった作品をカードの中から選ぶことができる。 《様相観察・学習プリント参照》 A. 想像力を働かせてテーマから色や形等を考慮し、積極的に必要なカードを選ぶことが出来る。 B. テーマから必要なカードを選ぶことが出来る。	個人 小集団	10分 20分
	(4)最終的にどの作品を体育館に並べるのか決定する。 (5)展覧会のお勧めポイントをまとめる。 まとめ — 友達とテーマに沿った展覧会を考えることで、自分ひとりでは気づかなかった作品の魅力に気づくことが出来る。	・各自が選んだ作品がサブテーマに合わない作品と判断したら出品候補からはずさせる。出品作品は最大7点までということを知らせる。 ・どんな点がお勧めなのかを班内で簡潔にまとめさせる。			10分
	3 各班の発表を聞く。	・各班に、展覧会のお勧めポイントを発表させ、それぞれの班のサブテーマの意味や作品の組み合わせを聞く。	【鑑】友達の見解を参考にしながら、展覧会のイメージを持つことが出来る。 《様相観察・学習プリント参照》 A. 選んだ作品から表現の意図や特徴などをとらえ、よさや美しさを感じ取ることが出来る。 B. 選んだ作品からよさや美しさを感じ取ることが出来る。		20分
学末	4 本時のまとめをする。 (1)本時の学習を振り返り、感想を話し合う。	・学習活動と内容を評価し、今後の鑑賞活動へつなげる。		— 斉	10分



展覧会を企画しよう！

展覧会のテーマ

卒 業

卒業式が行われる体育館に飾る作品を決めよう！

■自分が選んだ1点(作品番号を記入)

番	選んだ理由
---	-------

■自分の班で決定した作品(作品番号を記入)

番	番	番	番
番	番	番	番

※作品点数は、
最大で8点まで

■展覧会サブテーマの候補(思いつく言葉を記入しよう)



展覧会サブテーマの名前(決定版)



展覧会のお勧めポイント、みどころは？

今日の学習の感想

年 組 番 氏名

VI. 事業アンケート結果 ～感想（抜粋）と集計及び考察～

1. 児童生徒の感想（抜粋）

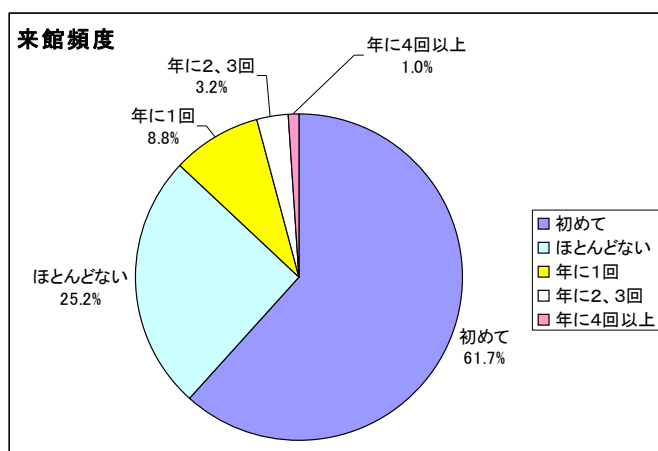
1. 私は初めて美術館に来ました。中は、とってもしずかでした。色々ありました。私は永田もえさんの作品がとても好きになりました。「絵」ってこんないい物なんだなと初めて思いました。ようせいや動物がかわいかったです。また来たいと思います。
2. たくさんの絵があつて、不思議やおもしろいなどたくさん感じた。また来たいと思った。本物の絵を見ることができて、とてもうれしかった。絵をみて、たくさん感じることもできた。今日のことを勉強にいかしたい。
3. 美術館に来て思ったことは、もえさんは、みんなが見れるようにもっと工夫したい、もっと工夫したいと思っていました。
4. 私は「ろうそく」の作品を遠くから見ると本物のように見えてそれからろうそくの火が下から上につれてだんだん色がこくなっていくので、それが心にのこりました。美じゅつ館で自分の気にいった作品が見つけたのでうれしかったです。
5. 松本英一郎さんの「敗走者」という題名を見なかったら戦いに勝ったサムライのように見えた。作品を見て話し合っている所や他にもどのように見えるかを伝え合うことは大事だなと思った。
6. 自分の絵の世界が広がったと思った。自分の想像をこえた絵があつておもしろかった。
7. 松本英一郎の「さくら・うし」の作品がなんだか不思議な感じがしました。美術館にはこれまで来てもボーッとされていてあまり注意深く見ていませんでした。けれど、じっくり友達と見てみると一つ一つの作品に個性があつて、いろいろな見方があつて、とてもおもしろかったです。不安な気持ちになるものもあるし、見ていて楽しくなるものもありました。だけど、共通しているのは、不安になるのも楽しくなるのも、人それぞれで感じ方もそれぞれだということです。とても楽しくおもしろかったです。
8. 美術館にくる前は、絵の美しさを見い出して、自分の眼力を優れた物にする所だと思ったけど、実際は作品について考え、ひらめく所なんだと思いました。
9. 風景No.4の松本英一郎さんの作品が立体的でした。下の方の丸太のようなものが見えて、よく考えると何にでも見えました。ぼくは、この美術館で絵という一つのものでこんなにも人が楽しめるものだなあ、おもしろいなあと思いました。とくに、松本さんの風景No.4は下の方が海に見えたり丸太に見えたり色々なものが想像できて楽しかったです。
10. 楽しかったこと→友達が作品をどういうふうに見ているか知れたこと。
11. 私は今回が初めてで、来る前はとてもうきうきしてやってきました。私は、さくら・うしがとても気に入りました。とても景色がきれいだったからです。今度来る時は、家族みんなで来て、家族全部の思い出にしたいと思いました。
12. 最初は美術館ってどんなところなんだろうと思っていましたが、行ってみると、とてもしんびてきなところでした。なんだか見とれてしまう絵もあつたりなんだかよくわからない絵もありました。いろいろな個性があつていろいろな作品がありました。
13. イメージしていたのところが、だれでも来れるような場所。
14. 最初は静かで何かむずかしそうでした。作品を見てみたら、いろんな物に見えてき

- て、そんなにむずかしくないなと思いました。いろんな物に見えたり感じたりする作品がたくさんあってオモシロイ作品が心に残りました。
15. 美術館には、あまり行かないから、好きな絵がたくさん見つかっておもしろかった。
16. 遠くで見たり近くで見たときの感じがちがうからすごいと思いました。
17. 美術館は最初、そんなに子どもが行くところではないのかなあと思っていたけど、そうでもなくて、子どもでも楽しめるところよかった。
18. 美術館に来て不思議なパワーのようなものがあつた。
19. いろいろな絵のかき方やとくちょうなどをいろいろ教えてもらったからすごくうれしかったです。
20. たくさん作品を見て感想を言い合うと深くアートについて考えることができました。
21. 美術館に来て不思議な絵やおもしろい絵などがたくさんあって、いろんな表し方があるんだと感じました。私もこれから絵をたくさんかいていきたいと思っし、むずかしい絵にもちょうせんしていきたいです。絵には、人の心を楽しくしたりする力があるんだと分かりました。また、美術館に来てみたいし、もっともっとたくさん絵と出合いたいと思います。
22. いろんな人達の絵を見て、いろんな思いを感じました。学校で絵をかくときは、今日見た絵などを思い出しながら自分の気に入る絵をかきたいです。
23. 普通なら「どうしてこんなものが美術なんだろう？」と思って通り過ぎる作品も少なからずありました。でもそれを「つまらない」と思うのではなく「どうして」と疑問を持つことが大切なんだなと思いました。
23. 来る前は美術館って退屈そうだななんて思っていたけど、いざ来てみるといろんな作品からそれぞれたくさんのが豪快にまたは素朴に伝わってきました。自分のお気に入りの作品も見つかり、自分には美術なんて関わりがないと思っていたのに美術館で作品にふれあうことが自分にとって考えるという大切な時間を与えてくれたと思います。
24. 美術館といえば「絵」というイメージがあつたけど、映像や木で作った作品や彫刻など、びっくりするようなものやいいなと感じるものがたくさんあり、とても楽しかった。「光」というテーマでもいろいろな表現がありおもしろかった。美術館にまた行きたいとすごく感じた!!
25. 「ベルサイユのばら」ではいろいろな工夫をされている上、アニメにする時1コマ1コマを手描きでかいていたことに驚きました。ライバル対決の中村さんと児島さんの絵は、どちらもすごくて、遠くで見る時と近くで見る時とでは、絵の形、色などが変わる事を発見し、ますます興味を持ちました。
26. 友達と絵について話すと楽しかったし、つまらないというイメージもなくなった。美術作品の見方がわかってよかったと思う。あと、お母さんがベルサイユのばらが好きだから、どういうものか知れてよかったし、家で話したいと思う。
27. 思ったより楽しくて面白くて、色々な絵画を見たりその説明を聞くのは楽しかったです。美術館というのは、もう少し面白くも楽しくもなく、ただ単に作品を見るだけで、僕みたいな芸術的センスに欠けた人が見ても絶対に楽しくないと思っていました。しかし、絵画などの説明が分かりやすく、けっこう楽しめました。これからは芸術的センスを鍛え、もっと絵画を楽しめるようになってまた来てみたいです。

2. アンケート集計結果（児童生徒）と考察

（1）美術館への来館頻度

【資料－１】

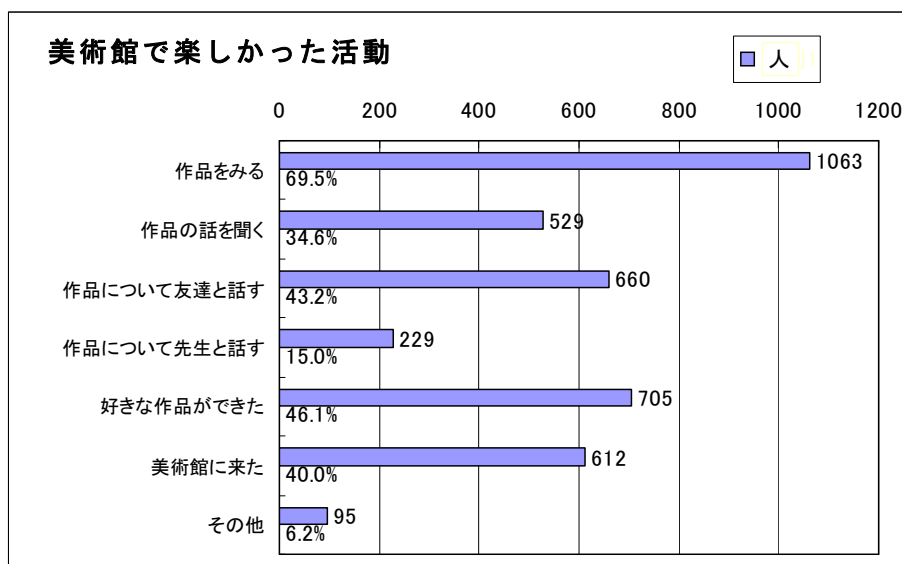


年に4回以上	16
年に2, 3回	49
年に1回	134
ほとんど行かない	384
初めて	941
計	1,524

- 【資料－１】のアンケートからわかるように、約60%の児童生徒が初めて美術館に来館しており、ほとんど来館したことがない児童生徒数と合わせると、約9割の児童生徒が美術館を訪れる経験をしていない。つまり、スクール・ミュージアムバス事業（アートコース）は、美術館と初めて出合う機会であったり貴重な美術館体験の場となったりしている。本事業をきっかけとして、これまで「未知の存在」「遠い存在」であった美術館を訪れ、実際の美術作品を鑑賞したり美術館という空間で活動したりする体験ができた児童生徒が1人でも増えていくことは、これからの美術教育や美術館にとって大きな意義があると考ええる。

（2）美術館で楽しかった活動

【資料－２】



- 本年度は、児童生徒が「美術館においてどのような活動を楽しんでいるのか」をアンケート項目に設定し、その内容について調べてみることにした。【資料－２】の

とおり、最も楽しく感じた活動は「作品をみること」であり、約70%であった。また、「好きな作品ができたこと」との回答は46.1%であり、約半数を占めた。これらのことから、児童生徒にとって、美術館で実物の美術作品を鑑賞し、美術作品と向き合うことが、大きな感動や喜びにつながる体験となっており、本事業の大きな目的である「実物の美術作品」を鑑賞することで児童生徒にもたらされる感動体験の提供ができたと考ええる。

また、小集団活動等を行うことによる「友達と作品について話すこと」も43.2%と、高い数値を見せている。美術作品を通して、友達とコミュニケーションを図り、感じたことや考えたことを交流することが、児童生徒の楽しさになっていると考える。

(3) 美術館に対するイメージの変容

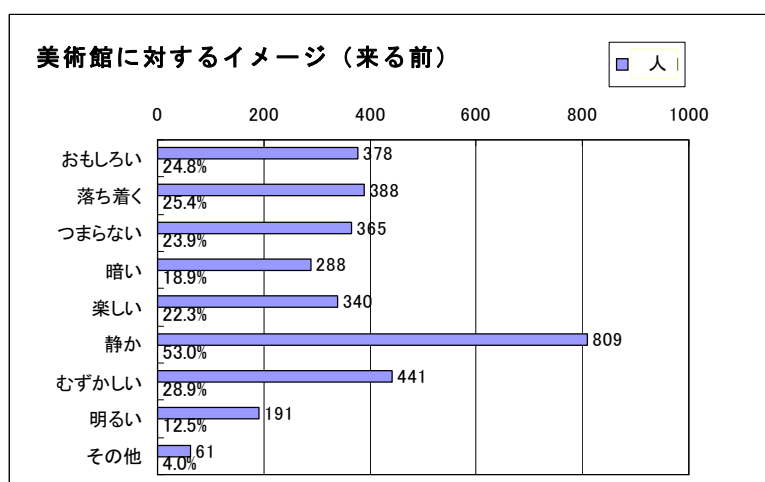
本年度は、「美術館に来る前と来た後でどのようにイメージが変容するか」ということについてアンケートを行い、美術館での活動の効果について検証してみた。

【資料－3】と【資料－4】を比較すると、特に「おもしろい」が24.8%から61.2%、「楽しい」が22.3%から54.8%へと変容しており、美術館が面白く楽しい場所である印象へと大きく変わっている。

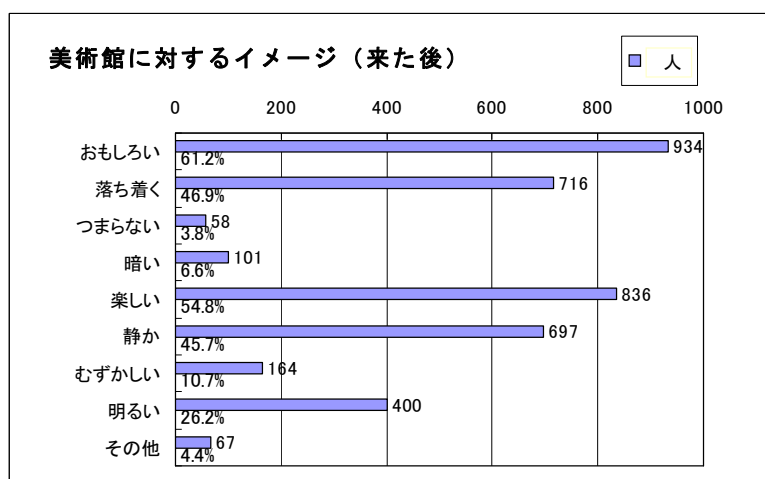
また、来る前は「つまらない」が23.9%あることは誠に残念であるが、来た後で3.8%へと大きく減少している。美術館体験によって、美術館に対するイメージが大きくプラスに変容している。

これらのことから、より多くの児童生徒

が美術館を訪れ、美術館体験や美術作品との出会いをとおして、児童生徒自身が美術とより豊かに楽しく関わる機会を増やすことの大切さを実感した。



【資料－3 美術館に対するイメージ（来る前）】



【資料－4 美術館に対するイメージ（来た後）】

3. 教師の感想（抜粋）

（◇は意見、課題等）

1. みなさんの指導体制がしっかりしていて安心して活動させることができました。
2. 県境に学校があり美術館に来るチャンスが少ないため、この事業は、学習できるチャンスであり、ありがたい。
3. 京築の子どもは近くに美術館がなく、行ったことやふれたことのない子が多いので、ぜひ来年以降もしていただけたらうれしいです。
4. 非常にありがたい。美術館に家族で行ったことがあるのは、学年で2人であった。今回みたいに話を聞いて、思いを伝えたり感動したりする場面があれば、芸術・美術に関心が持てると思う。
5. 美術館見学をする子どもは家庭によって差があるので、今回のように補助していただいて見学できたことは、とてもよい体験になりました。また、鑑賞の仕方、見方を広げるとらえ方などを教えていただけてとてもよかったです。
6. 初めてこの事業に参加させていただいて、こんなすばらしい事業があるんだと知った。子どもたちは、絵は紙に描かれていると思っていた子どもも多く、本物の絵を鑑賞できる貴重な経験になったと思う。将来絵を見に行こうとか、行くような子どもたちがきっと育つと思う。
7. 本物を「見る」ことで、これまでと違う感動を味わうことができたと思います。本当はもっともっと時間をかけて見せたいところですが…。教員も子どもたちも本当に良い経験をさせていただきました。
8. 表現が苦手な子も、自分の言葉で伝えることができたし、自他を認め合う人権尊重の視点からもぜひ継続したい取組だと思った。いろいろな学校が参加できるよう事業を拡げてほしい。
9. 子どもたちには、本物にふれさせることがとても大切だと思いました。教室の中で行う鑑賞とは違い、思っていることや感じていることがさらに深く言えていたように思います。
10. 鑑賞の技能や態度を育てるだけでなく、ものの見方や考え方を広げることにもつながると思った。
11. 今年初めてやってきましたが、子どもたちの美術を楽しむ気持ちや感性を育む上で、できたら来年もお願いしたいです。
12. 今回初めてスクール・ミュージアムバス事業に参加いたしました。生徒と一緒に回りながら生徒の楽しそうないきいきとした顔を見て、今後いろいろな場面で今日の学習を話していきたいと思います。
13. バスの送迎までしていただき、美術館など体験することがほとんどない子どもたちに社会のルールやマナーを学ぶ機会にもなり、とてもすばらしい事業だと思いました。
14. 学校でも鑑賞の授業はしますが、このような本物の場で本物の作品にふれ、本物の雰囲気を味わえるので、また違った感動がありました。
15. なかなか福岡の美術館まで行ける経験は少なく、親も美術館に行って絵を見る経験をあまりしていないと思う。子どもたちは休みの日に遊園地等に行くことは喜んで美術館へはなかなか足が向かないようだ。本物の絵や美術、芸術に触れる経験は情操教育にも役立つし、子どもたちの芸術を見る目も肥えると思う。
16. 初めての体験でしたが、1学期か2学期はじめにこの学習を組んで、その後の描画指導に生かしたいと思いました。大福小出身の大内田さんの絵を見ることができ、とても感動しました。

17. 子どもたちが真剣に絵を見て、「すごい」「ここが好き」「こっちもいいな」など様々な感情が表れている様子がたくさん見られました。普段なかなか自分の思いを表現することができなかった子が、笑顔で友達に話している姿は担任としてうれしく思いました。また、絵の見方なども教えていただいてとても参考になりました。
18. マナーなど具体的に教えていただけるのですごく良かったです。
19. 作品の構図や色をかえて比べて見ることは、子どもたちにとっても初めてのことであったと思う。作品をいろいろな角度から見たり感じたりするためのよい体験になったと思う。
20. 実体験が少ない本校児童にとっては、かなり貴重な学習の場となったようです。マナーなど十分身についていない面も多いのですが、実際に経験させないと分からないと思うので大変ありがたかったです。
21. 鑑賞態度は経験だと思います。よさやおもしろさを見つけるのも経験だと思います。続けなければ育ちません。県立美術館の方が嫌でなければぜひまた利用したいです。
22. 家庭ではなかなか美術館に行けない子どもたちがいるので、学校で参加できると子どもたちの成長のきっかけになります。
23. 今日にいたるまでに細かい打合せ、準備をしていただき、本当にありがとうございます。
24. 車イスやストレッチャーを使用する生徒に対して細やかに対応していただき助かりました。大きな絵の前では、じっと見つめる姿もあり、絵の色彩や表現を感じとっているように思いました。美術館に来る機会が少ないので、スクール・ミュージアムバス事業は楽しみにしていました。
25. 美術は特に詳しい人から説明してもらったらその作品のよさが分かるのでこういう機会があってよかった。(説明してもらわないと分からない)
26. 子どもたちが興味をもてる内容と展示方法で、とても有意義な時間を過ごせました。また、子どもに縁のなかった美術作品や美術館がとても身近に感じられました。
27. ゆっくりじっくり見る時間を計画的につくりたいものです(学校の方が)。できれば一日美術館で過ごす体験も大切かと思います。打合せからいろいろ相談に乗っていただき、ありがとうございました。国語の学習につなげていきたいと思います。
28. 盛りだくさんの内容が、子どもたちに分かりやすくコンパクトにまとめられていました。子どもたち(私も含めて)は、また美術館に足を運びたいとの思いを持つことができていたのではと思います。
29. 子どもたちの様子を見て、改めて鑑賞することの大切さ、自分の思いを伝えることの大切さを知りました。
30. ゆっくりはつきりわかりやすい言葉で伝えていただいたので、手話通訳しやすかったですし、生徒達もわかりやすかったと思います。自己紹介などの手話を覚えていただいていたことで、生徒達も親密感を覚えたようです。
31. それぞれの生徒に発表の機会を作っていただいた点が良かった。
32. 視覚的な情報がしっかり保障されていて良かった。プレゼンテーション(スライド)の情報に字が入っていて生徒にとってはとても見やすいものでした。
33. 静かにできない子や突然走り出してしまう子など、なかなか家庭で美術館に連れて行くことは難しいと思うので、こういう機会は貴重です。保護者もとても喜んでいます。
34. 公共施設での利用は家庭ではなかなか行けない子も多いので、このような機会があると良いです。
35. 非常によい活動でした。その理由として、ふだんなかなか美術館に行くことがない

- ので、鑑賞の仕方がわかったと思います。特に小学生の間にこのような機会をいただいたので、この先絵に親しむことができるきっかけとなればと考えています。
36. 子どもたちの美術への興味・関心を高めるためには、実際美術館で本物の絵を鑑賞することは大切だと思いました。
37. 芸術鑑賞の楽しみ方（作品を見て、自分の感想を持ち、交流すること）をわかりやすく教えていただき、ありがとうございました。子どもたちが様々な見方で絵を見ている姿がよかったです。
38. 今回交流活動を行うことで、作品のよさを再確認できた気がしました。
39. 小さい頃から鑑賞することをこのような形で学んでおくと、将来的には美術・芸術を味わうことができる人を育てることができると思います。
40. 日頃なかなか訪れることのできない美術館に来れたことがまず良かったです。子どもたちの口からは「すごい」や「写真みたい」など驚きの声がよく上がっていました。芸術にふれることは大切なんだなと思いました。
41. 作家の方に会えるチャンスはありがたい。実際に絵を描いていらっしゃるところを見せていただくのもすごく印象に残ると思います。
42. 計画が細やかで、思った以上によかったです。美術館に来たことのない子どもたちにとってすばらしい体験でした。
43. 場所が遠いこともあり、日頃美術館に足を運ぶ機会が少ない子どもたちにとって、優れた美術作品を鑑賞できたので良かった。また、日頃の学習では、本や図鑑などで鑑賞することはあるが、本物を見せられないので、実際に目の前で作品を見ることのできるこの事業は素晴らしいなと思う。これをきっかけに美術館に足を運んだり絵や彫刻などに興味を持つ子が増えるといいなと思う。
44. 事前指導を十分に行うことで学習の成果が高まると思った。
45. 初めて自分自身が経験したが、休館日にゆっくり説明と絵の鑑賞ができたことがよかったし、個人、グループ、そして説明と色々な鑑賞のさせ方と視点の与え方が参考になりました。
46. 視聴覚室で絵を紹介したり「どんなところが好き？」などとし合ったりするのもその後の活動につながっていてよかったです。
47. 鑑賞のポイントを子どもに話して下さったので、子どもが安心して交流活動に参加できました。
48. 日頃足を運ばない美術館を子どもたちは身近に感じることができた。「また来たい」と話した子どももいて、絵を見ること、美術館の楽しみ方など肌で感じることもできました。また、この事業は別の施設にも行けるということで、今回は市の防災センターにも行くことができ感謝しています。
49. 美術館に来る機会の少ない子どもたちにとって鑑賞マナーや作品の見方をわかりやすく説明していただき、貴重な体験ができました。
50. とても有意義な時間で子どもたちも色鮮やかな世界に心を奪われ、しーんとして見入っていました。もっと時間があれば！ということだけが心残りです。
51. 補助金が出るということではなく、鑑賞プログラムがとても良かったので、次年度も可能であれば来館したいと思います。
52. 生徒たちが美術作品を鑑賞する時間というのは大変貴重でした。より興味を持って話し合いをしている様子やじっくり見入っている様子を見ると、やはり良い体験だったと実感し、大変感謝しています。今

後の進路選択や美術、また、文化展等に生かし、生徒たちに生活していってもらおうと思います。

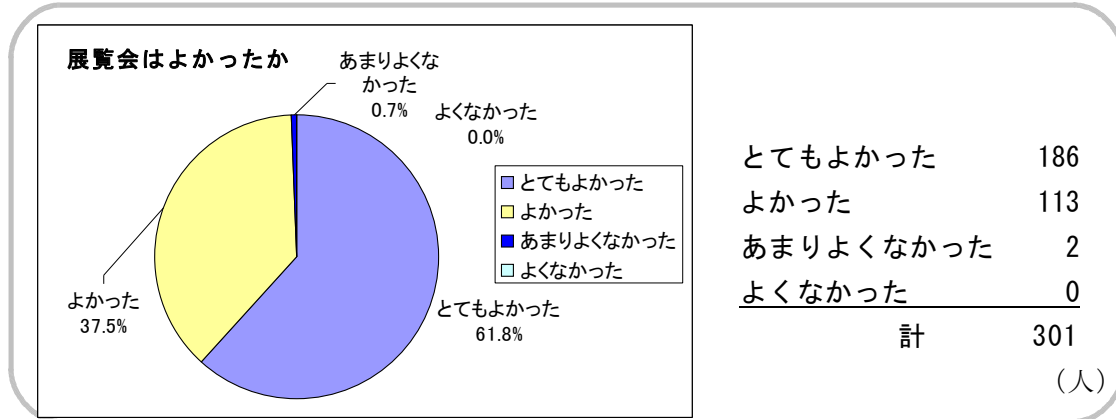
53. 生徒同士で話し合い活動ができていたので、とても良かったです。事後指導もきちんと行い、美術の授業に生かしたいです。今年の教科書改訂で国語と美術との関連が多くなっています。中1「芸術作品の鑑賞を書く」中2「論説文」中3「発展教材（展示法）」。
54. 往復のバスもたいへん条件のよいものを用意していただきました。
55. 小・中学校ではいわゆる5教科ばかりに力を入れている昨今、子どもたちがバランスよく成長するためにも、ぜひ今後も取り組んで欲しい！来て良かったです。
56. いろいろ説明をしていただいて生徒達も興味を持って鑑賞できたと思います。このような事業を続けていただけると良いと思いました。ありがとうございました。
57. 乗り気でない生徒もいましたが、絵に触れ、自分の好きなように味わってよいということで、次第に世界に引き込まれていっていました。素晴らしい機会をありがとうございました。
58. 素晴らしい機会を与えていただいて子どもたちは幸せです。ありがとうございました。
59. 本物にふれるということは大変よい企画だと思います。本物を見るという機会はないかなかないので、ぜひこれからも続けてもらいたい。
60. 高島野十郎の作品は一つ一つ近寄って見せたいポイントでした。また、本物を見る機会があることが一番の価値です。
61. 生徒が美術（芸術）だけでなく歴史にも興味を持つような内容で非常に良かったと思います。
62. 若い年齢層に“生の芸術”を普及する方法としてよい選択だと思う。
63. 美術館におけるマナーがわかってよかった。学校にいるときよりマナーをよく守った。
64. 定時制の予算の少ない中、本日来館できてうれしく思います。生徒もよく見て感じてくれたと思います。
65. この事業を今まで知らなかったことが残念…に思われるくらい充実した時間を過ごさせていただきました。これからもぜひ続けていただきたいです。

-
- ◇1つの場所にもっと時間をかけられると、年齢によっては、よりじっくり見ることができる。
- ◇もっとじっくり時間をかけて見たかったです。（高学年の方は話し合う時間がとれていなかったようなので）
- ◇最後に全体を通して好きな絵が見られる時間がとれたらいいと思った。透明絵の具を実際に用意していただいてよかった。作家についての紹介を聞くことができてよかった。
- ◇筑後市内にももっと紹介して、部活（美術部）の人数が少ない学校とも交流するのもよいと思います。
- ◇事前指導が十分でなく、生徒の意識づけが弱かったところがあったことが残念で申し訳なく思いました。ぜひ今後も利用させていただきたいです。
- ◇県立学校はこの事業を知らない所が多いので、情宣が大事だと思いました。
- ◇実際に作品を鑑賞する時間が短かったように思います。次々と見ていかなければなりませんでした。これはちょっと立ち止まって見たいという作品があってもゆとりをもつて見る時間がとれなかったように思います。※小学校低学年
- ◇もっとじっくりと時間をかけて学習できる方がよいが、興味のある生徒とない生徒がいるので、この程度の時間が良いかなと思う。
- ◇学校側のマナーを整えてから来たい。

4. アンケート集計結果（教師）と考察

（１）展覧会の感想

【資料－１】

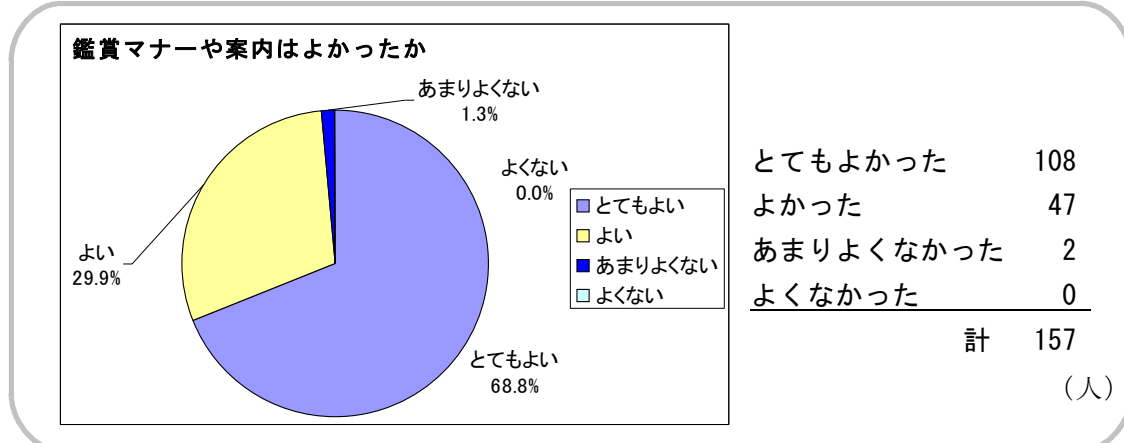


(※複数の展覧会観覧者あり)

- 「とてもよかった」「よかった」の合計は99.3%であり、展覧会はたいへん好評であった。児童生徒と同様に教師にも美術館体験は貴重な体験となっており、教員の事後アンケートの感想でも多数学習プログラムの評価を得ている。また、コレクション展やみる・しる・まなぶシリーズの展覧会は、福岡県ゆかりの作家を中心として、郷土の作家の美術作品等を多く展示しており、福岡県ゆかりの作家や美術作品を知ったり親しんだりする場として、好評であった。

（２）職員による鑑賞マナーや案内について

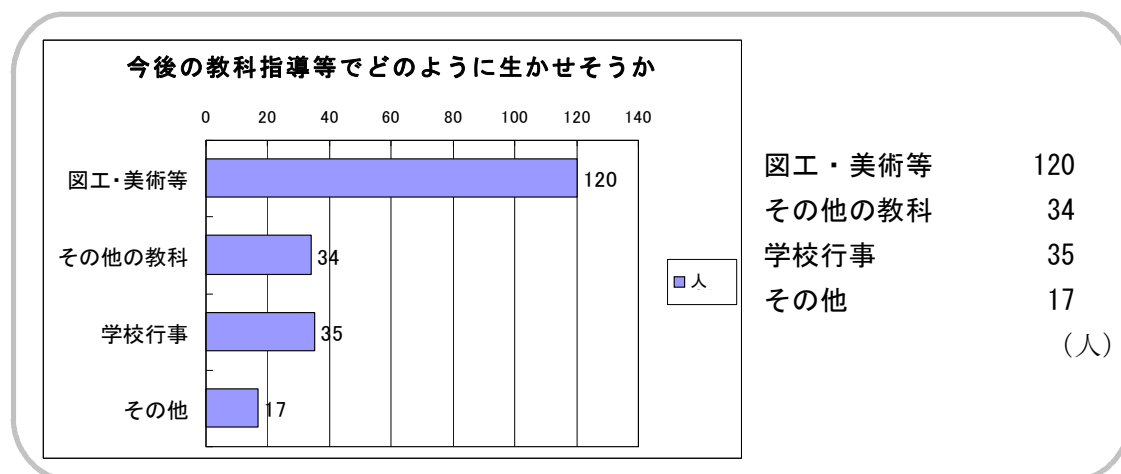
【資料－２】



- 「とてもよかった」「よかった」の合計が98.7%と非常に高かった。学校担当者との十分な事前打合せの上、小・中・高等学校・特別支援学校等の児童生徒の実態に合わせたプレゼンテーション（スライド）による学習プログラムの導入を行ったことは好評価であった。展覧会場での鑑賞活動は、他の来場者への配慮が必要であるが、来場者の理解も徐々に高まり、一緒に活動に参加したり鑑賞活動を温かく見守ってくださったりする方も増えてきたように感じられた。鑑賞マナーについては、引率教員等も含め、美術館での学習や実際の来館体験によって普及していく面もあると考える。

(3) 美術館での学習を学校でどのように生かせそうか

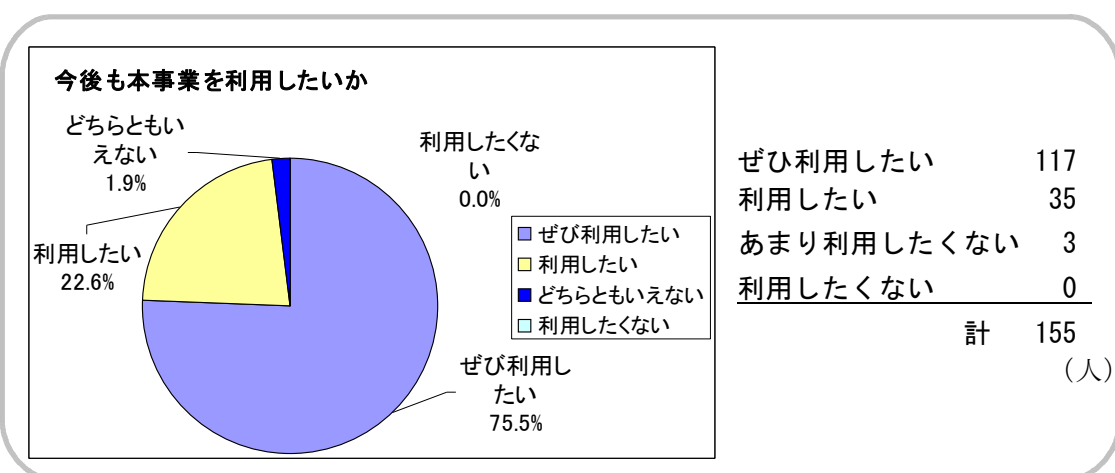
【資料－3】



- 「その他の教科」では国語 13 名が最も多く、社会、理科、数学、英語、総合的な学習の時間、学級活動、道徳、クラブ活動、生活単元学習といった教科領域にわたって生かせそうであるとの回答を得た。特に国語では言語活動の充実を図る上で単元間の関連や発展に生かしたいとの意見を多くいただいた。また、「学校行事」「その他」では、HR、部活動、文化祭、体育祭等において生かせるとの回答を得た。さらに、「その他」では、「人それぞれのものの見方に多様性があることに気付かせる活動」「友達のことを理解するための活動」「自分の気持ちを表す活動（自己表現の場）」といったことに生かせるとの回答も得た。当館での鑑賞学習が様々な教科領域における学習や活動につながる内容であることを表しているものと考え。

(4) スクール・アートバス事業を今後も利用したいか

【資料－4】



- 「ぜひ利用したい」「利用したい」の合計が 98.1% である。また、本年度来館した学校 32 校中 13 校が平成 25 年度に再度申し込みを出しており、年々リピーターが増加している。「また利用したい」と思ってもらえる事業を目指している当館としては、当館における学習プログラム等の事業内容を評価していただいているものにとらえたい。

Ⅶ. 成果と課題

成 果

〈学校〉

- ・ 本年度も学校担当者と事前の打合せを十分に行い、事業を実施した。また、「鑑賞プログラム」「鑑賞マナー」「美術作品の見方」「展覧会紹介」といった内容を各学校、学年、児童生徒の発達段階や実態、学校の学習目的等に合わせて行った。学校での事前指導とも相乗効果を上げながら児童生徒が鑑賞する能動的な鑑賞活動を展開することができた。（教師の感想からも、十分な事前打ち合わせや細かい連絡等を行うことで、学習プログラムの効果が上がったとの評価を得た）
- ・ 本年度も鑑賞プログラムに小集団活動（グループによる話し合い）を取り入れ、児童生徒同士が言語活動を通してコミュニケーションを図りながら鑑賞することができた。小集団活動では、児童生徒は多様な見方・感じ方・考え方があることに気付いたり、互いの意見を尊重し合うことで安心して自分の考えを表現し合ったりする姿が多く見られた。（児童生徒の感想に、小集団活動の中で友達と絵について話し合い、交流できたことがとても楽しかったと多数あった。また、アンケートデータからも小集団活動での友達との交流活動は効果があったと考えられる）
- ・ 小規模校等は人数の関係で一人当たりのバス代等の経済的負担が大きくなってしまいうことでバス等を利用する行事や学習をなかなか組めないことがある。また、特別支援学校は、車いすやストレッチャーなどの運搬のために経費がかなりかかることが多い。本事業では、そのような意味で学校（保護者）側の経済的負担を軽減でき、たいへん喜ばれた。また、往復の経路に他の施設等の利用も幅広く活用していただき、好評であった。
- ・ 前年度の課題であった「打合せに来館しない引率者等の共通理解を図ること」については、打合せに来館した先生方の努力等により、かなり改善できた。学校によっては、引率者全員が事前打合せに来館するところもあった。

〈美術館〉

- ・ 展覧会毎に学習プログラムを作成し、展覧会の内容や児童生徒の実態に合わせた鑑賞活動を展開することができた。
- ・ 多人数での来館希望団体を限られた職員でどのように対応していくかは大きな課題であったが、時間差で鑑賞マナー等の指導を行うなどの工夫によって、ある程度対応することができた。
- ・ 子どもたちの変容や美術館の鑑賞プログラムを考察する目的でモデル校として2年続けた採択を行った学校数校について、①学校側としては、施設利用の仕方や学習プログラムの大きな流れ等を十分に踏まえて来館できたので、活動がスムーズに行えていた。②子どもたちの変容については、実際には新しく来館した児童生徒や引率者がほとんどなのであきらかにできなかった。
- ・ 大規模校来館時の一般来館者への配慮については、ホームページによる告知や館内入口への事業実施告知、児童生徒への指導援助などの取組により改善された。

課 題

〈事業〉

- ・ 本事業のリピーターが多いことは、本事業を評価していただいているという意味で、たいへん有り難いことである。しかし、一方で新しく申込を希望する学校数が伸び悩んでいる。事業の周知・通知の仕方について、より一層の検討が必要である。

〈学校〉

- ・ 引率教員が学習プログラムの内容や趣旨を十分に把握できていなかったり、美術館での活動で留意すべきことを十分に把握できていなかったりすることが本年度も多少あった。十分な理解の上で事業実施できるように、①実施案の事前送付、②当日の活動の打合せ等を細やかにしていくことが望ましいと考える。
- ・ 本年度も鑑賞活動時間の十分な確保が難しい学校があった。(遠距離から来館する学校や他の施設等を訪問する学校など。申込の時点で時間設定が短めの学校には、早めにゆとりをもった時間設定を提案することも考えられる。少なくとも1時間半から2時間程度の時間設定が必要であると考える)

〈美術館〉

- ・ 鑑賞プログラムや今後の教育普及プログラムなどは、ある程度方向性が固まってきている。今後、さらに長期的な展望に立って学習プログラムのマニュアル化と取組の継続化が必要である。
- ・ 児童生徒の鑑賞マナー指導については、学校における事前指導や当日引率教員による指導等に負う部分が多いが、場合によっては美術館職員が行うこともあった。教員を対象とした研修や鑑賞プログラムなどを設けるなどの方法も考えられる。
- ・ 本事業の発展として、教員等を対象とした鑑賞プログラムや研修の実施も考えられる。多くの教員等に鑑賞プログラムや研修を行うことで、より一層の美術教育の普及や美術館利用の意識を高めることにつながると考える。また、美術館に来館できない場合にも、多様な鑑賞学習をより多くの児童生徒に対して学校で実施していただくことにもつながると考える。

Ⅷ. 平成24年度スクール・ミュージアムバス事業方針と実施案

○事業の事前打合せの時には、下記のスクール・ミュージアムバス事業についての「福岡県立美術館」の方針について説明した。

1. 事業方針

平成24年度スクール・ミュージアムバス事業について

(スクール・ミュージアムバス事業では)

- 展覧会での多様な発想と表現に体全体で出合ったり自分の感性で作品とふれ合ったりすることで、いろいろな感じ方、考え方、表現の仕方があることを理解したり、ゆたかな想像力や人と人とのつながりを創出したりできるような場を提供します。
- 「スクール・ミュージアムバス事業」では、児童生徒と作品、人、そして美術館が出会い、つながり合うことを目指します。

(福岡県立美術館における学習のねらい)

- ア 福岡県立美術館で本物の美術作品に出会い、作品のよさや美しさを鑑賞する喜びを味わうことができるようにします。
- イ 福岡県出身や縁のある作家について知り、自分達が生活している福岡県からすぐれた作家が多く輩出していることや、文化芸術に係る活動が盛んであることに気付くことができるようにします。
- ウ 美術作品が様々な人々の営みや歴史の中で大切にされていることに気付く、自らも美術作品を大切にしようとする心情を育てます。
- エ 本物の美術作品の鑑賞活動を通して、「作品」「作家」「美術館職員(学芸員)」「友達」「自分」等と対話し、多様な見方・感じ方ができるようにします。
- オ 美術作品の鑑賞活動を通して、美術を愛好し、自らも積極的に文化芸術活動に参加しようとする心情を育みます。
- カ 公共の施設である福岡県立美術館での鑑賞活動を通して、鑑賞者としての態度や公共マナー等を身に付けることができるようにします。

こどもたちの美術館での
素敵な出合いを一緒にサポートしましょう



2. 実施案

学校名			
学校長名		担当者名	
予定人員	総計	人 (内訳)	年生 児童・生徒 人 引率者 人 その他 人
連絡先	TEL	()	—
	FAX	()	—
来館日	月	日 ()	時 分～ 時 分 (時間)
鑑賞する展覧会			
領域	図工・美術・社会科見学・総合的な学習の時間・遠足 その他 () いずれかに○を		
実施内容	■事前打ち合わせ 希望日 月 日 () ☐ トーク A (小集団) ☐ トーク B (学級) ☐ 作品解説 ☐ 体感ワーク ☐ 鑑賞ワークシート ☐ 館内・館外ツアー ■事後アンケート【必須】		
資料の希望	☐ 美術館案内リーフレット () 部 ☐ 展覧会チラシ () 部 ☐ 鑑賞ワークシート () 部		
必要欄に	☒ 実施欄に ☒		

< 鑑賞プログラム内容 (案) >

事前学習		
	↓	↓
～	鑑賞マナー・県立美術館紹介 晴天時 (正面玄関前) 雨天時 ()	対応職員
	↓	↓
～		
	↓	↓
～		
	↓	↓
～	鑑賞後のアンケート記入 (鉛筆) (教員にて鉛筆、バインダー回収→美術館職員へ提出)	
	↓	↓
事後学習		

<鑑賞経路>



3F

() 展

鑑賞活動

対応職員：



1F

() 展

鑑賞活動

対応職員：



4F

() 展

鑑賞活動

対応職員：

<備考欄>

Ⅱ. 美術館案内リーフレット「けんびいかん？」

平成24年度 福岡県立美術館 スクール・ミュージアムバス 美術館案内リーフレット

○作成の目的

- ・スクール・ミュージアムバス事業を利用し、訪れる児童・生徒が福岡県立美術館への興味・関心を高めるため。
- ・児童生徒が美術館の中でどんな仕事があるかを知り、今後の進路学習に役立てるため。

○作成の理由

学校現場での調査で「授業の中で美術作品を見るのは好きですか」という問いに対して「好き、まあまあ」を選んだ生徒は73%いて比較的興味・関心を持っている児童生徒が多い。しかし、「美術館へ行ったことがありますか」には70%の児童生徒が行った経験がなく、美術作品に関心があっても美術館へ訪れる機会がこれまでなかった実態がある。

今回、スクール・ミュージアムバス事業で実施校となった多くの児童生徒も初めての美術館体験となり、教科書でしか見ることができなかった本物の作品を鑑賞する絶好の機会でもある。このリーフレットは友達同士、または教師といっしょに美術作品に向き合い、良さや美しさを楽しみ味わいながら美術館への興味・関心をより高めることをねらいとしている。リーフレットには、美術館としての役割や館内でのマナー、美術館の中でどんな人達が働いているか、などをキャラクターを使って初めて美術館へ訪れる児童生徒にも親しみやすく構成している。多様な美術館体験の手だての1つとして、リーフレットが活用されれば、と願っている。

○リーフレットの特徴

- ・美術館へ来たことのない児童生徒達が美術館(福岡県立美術館)に親しみや興味を持ってくれるように、デザインも文章もやわらかいものにする。
- ・美術館(福岡県立美術館)を楽しむための約束(マナー)や美術との関わり方(見方)、施設の紹介をする。
- ・美術館(福岡県立美術館)という施設を理解してもらうために、美術館の役割とそのための特徴的な仕事の紹介する。

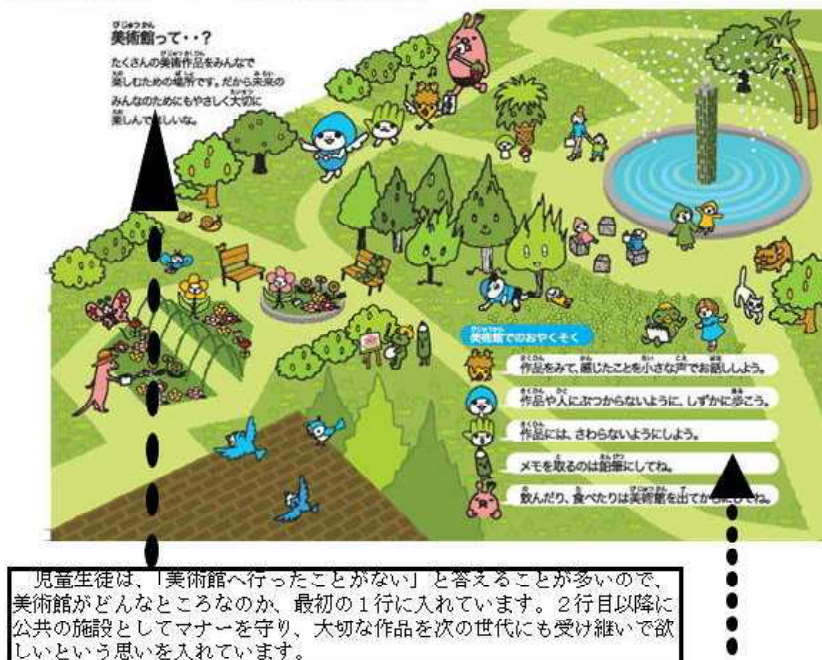
バスで美術館へ移動中、児童・生徒に美術館案内リーフレットを配付して、以下の内容を先生方からご説明ください。(説明例を記載しています。)

①表紙



友人3人が福岡県立美術館へ行くことになり、友人の1人(県美キャラクター、はびはび)が「いっしょにけんびいかん?」と博多弁で誘うところから始まります。

②美術館って・・・？ 美術館での約束



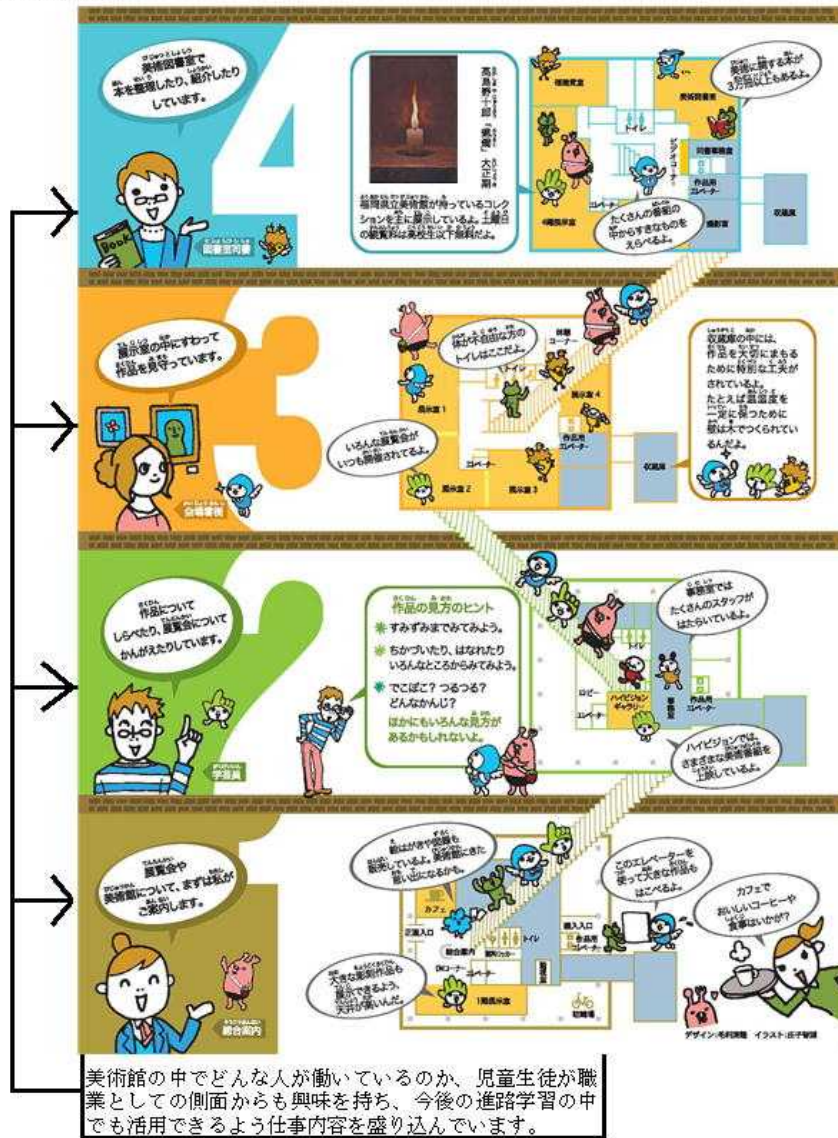
美術館でのマナーを鑑賞前に確認します。どの美術館・博物館でもほぼ共通する内容にしています。

※福岡県立美術館が建っている場所「須崎公園」を俯瞰した絵になっています。



3.1.1

⑤各階紹介



※3階の会場看視の「看視」は監視という漢字を使わず「見守る」という意味を持つ看視にしています。

平成24年度 スクール・ミュージアムバス事業 活動記録

発行日：平成25年3月

発行：福岡県立美術館

〒810-0001

福岡市中央区天神5-2-1（須崎公園内）

電話：092-715-3551 FAX：092-715-3552

ホームページ：<http://fpmahs1.fpart-unet.ocn.ne.jp/>